

平成29年度
海南市地域防災活動支援事業 実績報告
～ 日方地区 ～



平成30年3月

海南市

《 目 次 》

1. 概要	1
1. 地域支援事業の趣旨	1
2. 事業の目標	1
3. 実施概要	1
2. 防災研修会	3
1. 第1回防災研修会	3
1. 概要	3
2. 実施風景	4
2. 第2回防災研修会	6
1. 概要	6
2. 実施風景	6
3. 防災マップのへの落とし込みと地区の取組の検討	8
4. わが家の避難マップ	10
3. 第3回防災研修会	18
1. 概要	18
2. 実施風景	18
3. 日方小学校防災学習会	20
1. 概要	20
2. 実施風景	20
4. 防災訓練	21
1. 概要	21
2. 訓練時の状況	21
5. 日方小学校防災講演会	25
1. 概要	25
2. 実施風景	25
6. 訓練報告会	26
1. 概要	26
2. 実施風景	26
3. 訓練参加自主防災会の振り返り結果	29
7. 訓練後アンケート結果	65
8. 研修会及びアンケートのご意見・ご要望への回答について	75

1. 概要

1. 地域支援事業の趣旨

南海トラフ地震に備え、地震発生時の適切な行動や津波からの避難行動を身に付けるため、地域の大半が浸水想定区域である重点地区（日方地区）を対象に、津波避難訓練を実施する。

訓練当日は、防災行政無線放送により「大津波警報」が伝達され、地域住民は研修会で想定した避難のタイミングや避難経路に従い、訓練に取り組むことで、それぞれが災害時に必要となる避難行動を確認する。また、地区の学校と連携した取組を進める。

2. 事業の目標

平成24年度に実施した、津波から「逃げ切る」訓練を一步進め、自主防災組織や住民ごとに、具体的な避難行動とそのタイミング、要配慮者の支援、避難場所から避難所への避難（二次避難）を想定し、災害時の体制と行動を整理することで、地域住民一人ひとりの「自助」「共助」の精神の育成を図る。

3. 実施概要

(1) 防災研修会

【第1回】

日時	平成29年8月25日（金）19:00～21:00
場所	海南保健福祉センター 2階 多目的ホール
内容	1. 主催者挨拶 2. 学識経験者による講演 3. ワークショップ〈防災マップを用いた避難行動の検討〉 4. 第2回防災研修会の予定と準備について

【第2回】

日時	平成29年9月24日（日）10:30～12:00 ※研修会開催前（9:00～10:00）に各地区でまち歩きを実施
場所	海南保健福祉センター 2階 多目的ホール
内容	1. 重点地区防災研修会・訓練スケジュールについて 2. ワークショップ〈まち歩き結果の防災マップへの落とし込み、取組の検討〉〈避難時の地区の体制と具体的な行動の協議〉

【第3回】

日時	平成 29 年 10 月 10 日（火） 19:00～21:00
場所	海南保健福祉センター 2階 多目的ホール
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 訓練当日のスケジュール・内容について 2. 日方小学校の取組について 3. 要配慮者の支援方法について 4. 訓練までの準備事項等について

(2) 日方小学校防災学習会

日時	平成 29 年 8 月 29 日（火） 13:50～15:25
場所	日方小学校 教室
内容	1. 震災・学校支援チーム（EARTH）員による講話

(3) 防災訓練

日時	平成 29 年 11 月 12 日（日） 9:00～10:10
場所	日方地内
内容	津波避難訓練

(4) 日方小学校防災講演会

日時	平成 29 年 11 月 12 日（日） 13:40～14:40
場所	日方小学校
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 市職員による講演 2. 県教育庁職員による講演

(5) 防災訓練報告会

日時	平成 29 年 11 月 30 日（木） 19:00～21:00
場所	海南保健福祉センター 2階 多目的ホール
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主催者挨拶 2. 小学校からの報告 3. 訓練当日の地区の取組について各地区の報告 4. 訓練について市からの報告

2. 防災研修会

1. 第1回防災研修会

1. 概要

日時	平成29年8月25日（金）19:00～21:30
場所	海南保健福祉センター 2階 多目的ホール
参加者	地区参加者 54名 職員参加者(津波緊急避難ビル職員等) 7名 合計 61名
内容	<ol style="list-style-type: none">主催者挨拶 研修会の開催趣旨の説明学識経験者による講演 テーマ「自然災害に対して地域・地区で取り組む」 公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構 人と防災未来センター 研究部 主任研究員 荒木 裕子 氏ワークショップ〈防災マップを用いた避難行動の検討〉 ・各地区ごとにグループ員で、地区で想定する避難場所・避難路、 避難行動のタイミング、要配慮者の支援、二次避難について協議 し、大判（A0）防災マップに記載第2回防災研修会（まち歩き）の予定と準備について ・次回第2回防災研修会の実施日程・内容について案内 ・第1回防災研修会で作成した地区の防災マップをもとに、避難 路の危険箇所等を第2回防災研修会で反映させるための、事前 のまち歩きを依頼

2. 実施風景

(1) 主催者挨拶、学識経験者による講演



主催者挨拶



学識経験者による講演

(2) ワークショップ（各地区の防災マップ作成）の様子



1区（千原1、千原2、千原3、千原4
千原5、千原6、千原7）



2区（東雲、共栄、海中前
和大宿舎寮、新生町）



3区（上芦原1、上芦原2、下芦原
井引、朝日町）



4区（上神田、神田丸尾会、親和会、中神田1
中神田2、日方東、大江住宅）



5区〔井松原、駅二、県営海南駅前団地
日海、貴礼都、今市、新浜〕



6区〔池崎1組、池崎2組
池崎3・4組、池ノ丁〕



7区〔里之丁、宮前、南之丁
御門、奥之丁〕

2. 第2回防災研修会

1. 概要

日時	平成28年9月24日(日) 10:30~12:30 ※研修会開催前(9:00~10:00)に各地区でまち歩きを実施
場所	海南保健福祉センター 2階 多目的ホール
参加者	地区参加者 59名 職員参加者(津波緊急避難ビル職員等) 7名 合計 66名
内容	1. 重点地区防災研修会、訓練スケジュールについて 第2回研修会及び今後の流れの説明 2. ワークショップ〈まち歩き結果の防災マップへの落とし込み、 取組の検討〉〈避難時の地区の体制と具体的な行動の協議〉 ・まち歩きで確認した避難路の危険箇所等を、第1回防災研修会 で作成した防災マップに反映 ・まち歩きで確認した危険箇所等についての問題点とその対策に ついての協議 ・第1回防災研修会で作成した地区の取組における体制と具体的 な行動について協議 ・体制と具体的な行動に対する問題点とその対策について協議

2. 実施風景

(1) まち歩き、ワークショップの様子



総合体育館周辺



海南中学校周辺



元火葬場周辺



柿本神社周辺



柿本神社周辺



公園地山周辺



ワークショップの様子

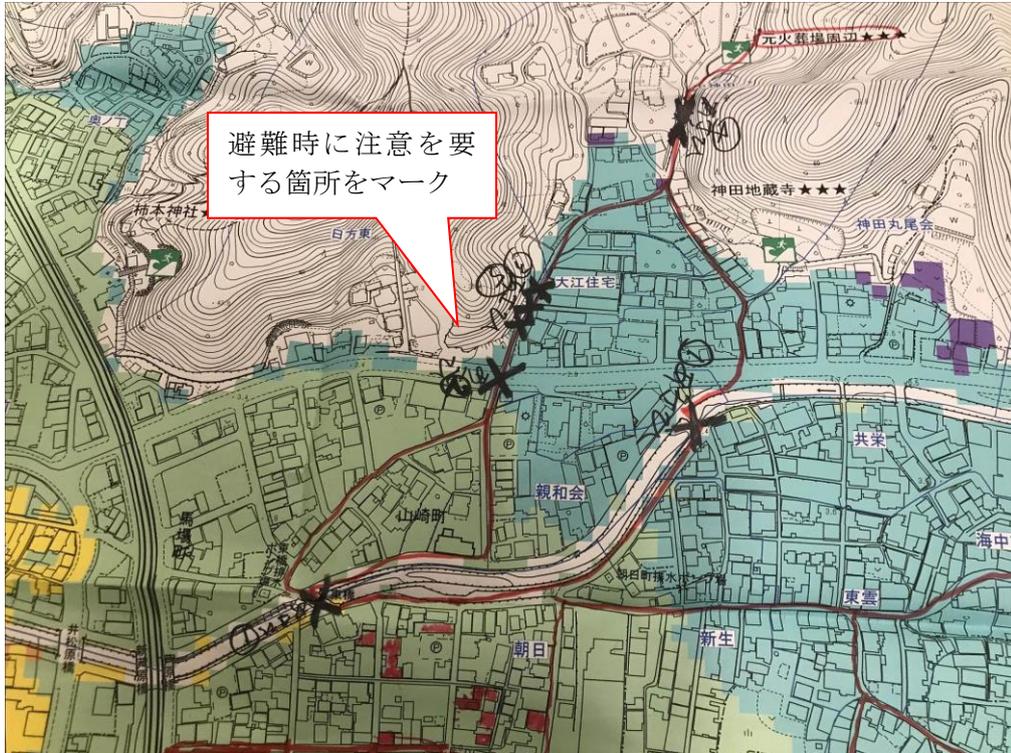


ワークショップの様子

3. 防災マップのへの落とし込みと地区の取組の検討

※作成した防災マップ【例：朝日町】

①避難場所・避難経路と避難路の問題点、要配慮者、二次避難の確認



- ・避難場所（元火葬場周辺）までの避難経路をマーカーで記入
- ・各自治会内で避難時に支援が必要と考えられる家庭をマーカーで着色
- ・避難場所から避難所までの避難が可能かどうか確認。

②まち歩きを実施し注意を要する箇所に対する対策の検討

まち歩きの結果における問題点と対策 整理シート①
(朝日町) 班数: 班 9

番号	問題点の具体的な内容	対策(どうすれば)
①	上り坂のため、車イスでの避難に支援が必要	・車イスの方の支援を複数で行う
②	道が細く、災害時通れない可能性がある	・代わりの避難ルートも考え、訓練等で時間を確認しておく
③	古いブロック塀が続いているので、倒れてくる可能性がある	・ブロック塀から離れて歩く ・道が細いので、代わりの避難ルート、またかかる時間も確認しておく。
①	車路 (倒壊の不安)	→ 神田地蔵寺 別のルート
②	横断歩道 車の接触等 (交通事故)	→ 急ぎで歩行者優先
③	左側 (山側) 歩道が狭い	→ 歩道幅を広く
④	元火葬場 避難場所として (山側) 11と3 右側	→ もと上に向けて
⑤	車イス 避難場所	→ 全員の時間を把握 (避難計画 12月 ~ 20年)

- ・まち歩きの実施し、注意を要する場所の内容を記入
- ・問題点に対する対策を協議

③津波の到達予想時間の確認、地震発生後の取組、二次避難先の避難所の確認

(朝日町) 防災マップ 協議用記入用紙

③地震発生後の地区の取組みの想定(時系列)

①地区の想定する避難場所	②自治会内に津波が到達する時間	地震発生後 ~15分後	16分後 ~30分後	31分後 ~45分後	46分後 ~60分後	61分後以降	④避難生活を行う避難所
藤白神社周辺	約50分 約55分 約60分 約70分	・地区住民の安否確認 ・地区住民への避難の声かけ ・救助、救出	・救助、救出 ・要配慮者の避難支援 ・資機材の持出し	・要配慮者の避難支援	・要配慮者の避難支援 ・避難場所での避難者の確認	・避難場所での避難者の確認 ・避難所への避難の検討	内海 保育所
元草場周辺	65分	地区住民への避難の声かけ	救助、救出	要配慮者の避難支援	避難場所での避難者の確認	避難所への避難の検討	内海保育所 海角市
元草場周辺	65分	地区住民への避難の声かけ	救助、救出				海角市

- ・地区ごとの津波の到達予想時間を確認
- ・地震発生後の地区の取り組み（声かけ、救助・救出等）を想定し、取り組みを行う時間帯ごとに記入
- ・避難生活を送る避難所（二次避難先）を想定

④津波の到達時間から、地区が想定する取組の体制と具体的な行動の検討、課題・対策の協議

地震・津波発生時の地区の取組(体制と行動)及び問題点と対策 整理シート② (朝日町)

避難中 避難後	地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な行動> どのように行う	課題(問題点)	対策(どうすれば)
避難中	地区住民の安否確認	10分後	自治会の誰か	地区の安全確認の巡回	集会所場所を 決めておく	知らせる
"	声かけ	10分後	"	声かけから避難支援		
"	救助・救出	20分後	"	水子子範囲で救出支援	水子子範囲で	"
避難後	避難場所での避難者の確認	30分後	"	声かけによる	完全には できていない	水子子範囲で
"	避難場所の検討	40分後	"	より安全な場所		

- ・地区が想定する取組に対し、避難中・避難後における体制（誰が）と具体的な行動（どのように行う）を検討し、記入
- ・体制と具体的な行動に対する課題（問題点）と対策（どうすれば）を協議し、記入

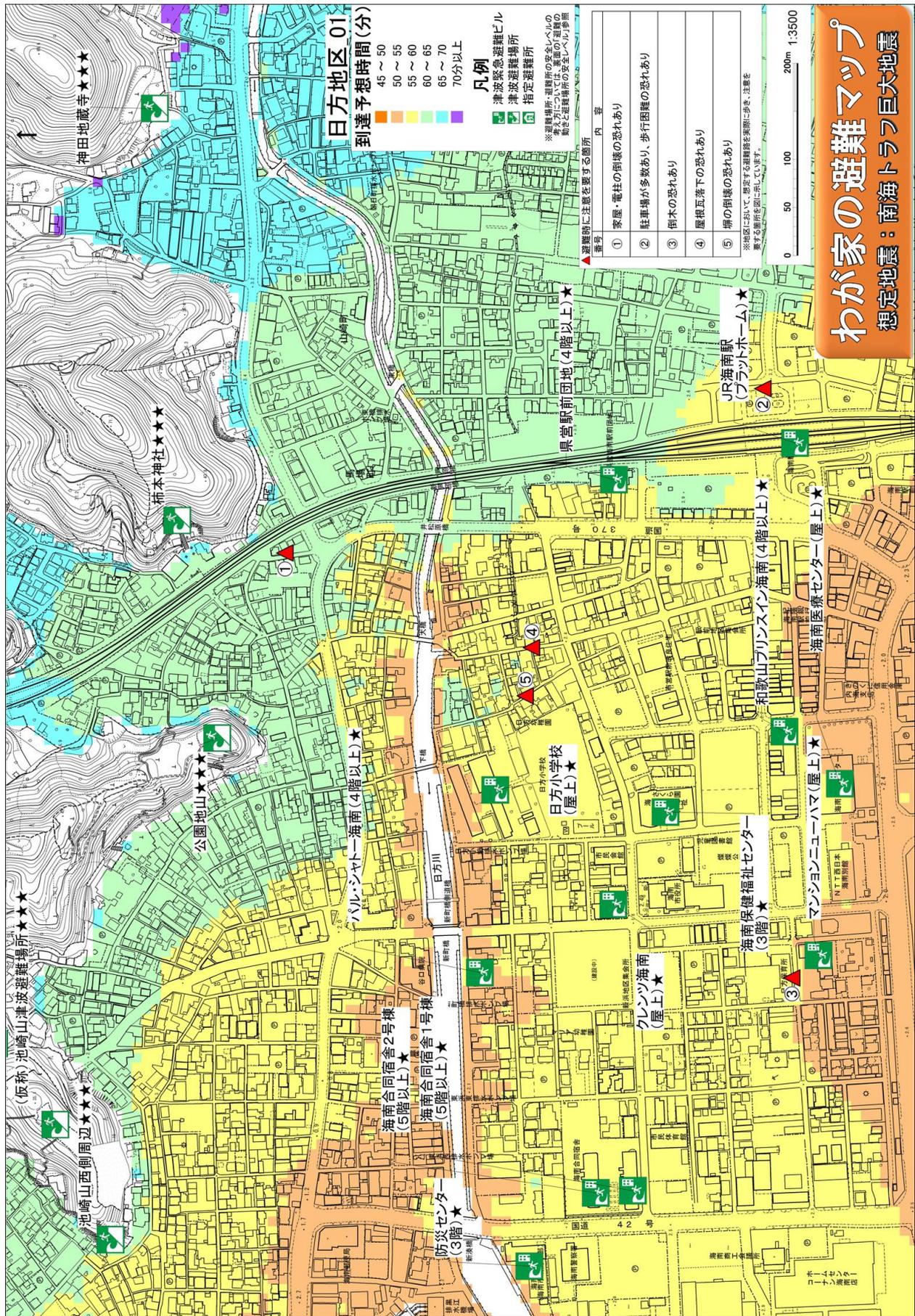
4. わが家の避難マップ

津波の到達時間、避難時の注意すべき箇所を記載した「わが家の避難マップ」を各世帯に配布。

地図面（表面）は各世帯による避難場所、避難ルートを記入。

啓発面（裏面）は津波時の避難行動等の知識習得、災害時の行動を整理し記入。

マップ番号	自治会名
日方地区01	井松原、駅二、県営海南駅前団地、日海、貴礼都、今市、新浜
日方地区02	池崎1組、池崎2組、池崎3・4組、里之丁、宮前、南之丁、御門、池之丁、奥之丁
日方地区03	中神田1、中神田2、日方東、大江住宅
日方地区04	上神田、神田丸尾会、親和会
日方地区05	上芦原1組、上芦原2組、下芦原、井引、朝日町
日方地区06	千原1組、千原2組、千原3組、千原4組、千原5組、千原6組 千原7組、東雲、共栄、海中前、和大宿舍寮、新生



わが家の避難マップ

想定地震：南海トラフ巨大地震

日方地区 01
到達予想時間(分)

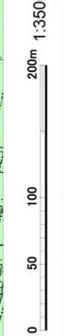
- 45 ~ 50
- 50 ~ 55
- 55 ~ 60
- 60 ~ 65
- 65 ~ 70
- 70分以上

凡例

- 津波緊急避難ビル
 - 津波避難場所
 - 指定避難所
- ※避難場所・避難所の安全レベルの考え方については、裏面の「避難の動きと避難場所の安全レベル」参照

番号	内容
①	家屋・電柱の倒壊の恐れあり
②	駐車場が多数あり、歩行困難の恐れあり
③	樹木の恐れあり
④	屋根瓦落下の恐れあり
⑤	塀の倒壊の恐れあり

※地区において、指定する避難路を実際に歩き、注意を要する箇所を記し、残っています。



日方地区 02

到達予想時間(分)

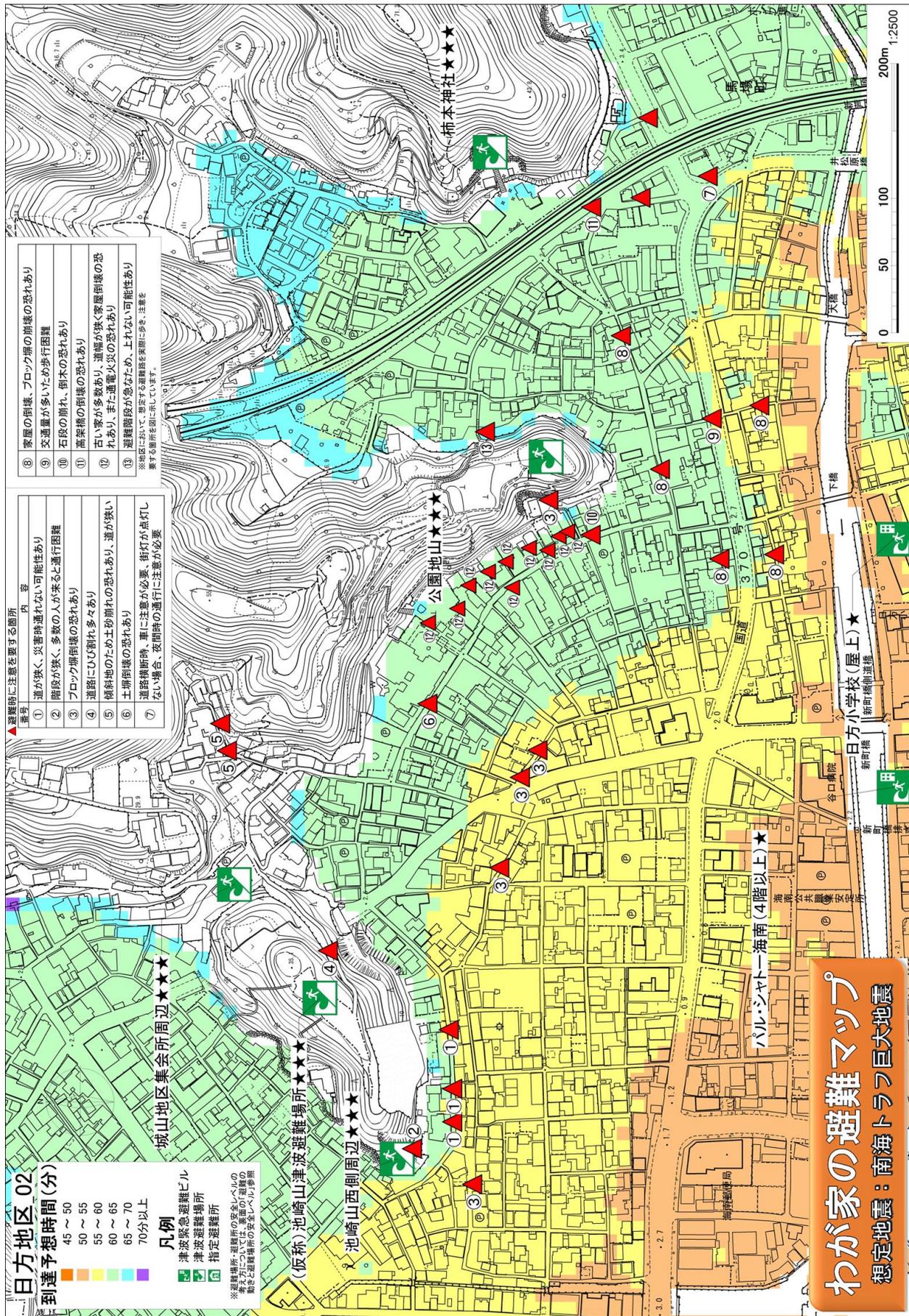
45 ~ 50
50 ~ 55
55 ~ 60
60 ~ 65
65 ~ 70
70分以上

凡例

- 津波緊急避難ビル
 - 津波避難場所
 - 指定避難所
- ※避難場所・避難所の安全レベルの考え方にについては、裏面の「避難の動きと避難場所の安全レベル」を参照

- ▲避難時に注意を要する箇所
- | 車道 | 内 容 |
|----|---------------------------------------|
| ① | 道が狭く、災害時通れない可能性あり |
| ② | 階段が狭く、多数の人が来ると通行困難 |
| ③ | ブロック塀倒壊の恐れあり |
| ④ | 道路にひび割れ多々あり |
| ⑤ | 傾斜地のため土砂崩れの恐れあり、道が狭い |
| ⑥ | 土崩れ倒壊の恐れあり |
| ⑦ | 道路遮断時、重に注意が必要。街灯が点灯しない場合、夜間時の通行に注意が必要 |

- | | |
|---|-------------------------------------|
| ⑧ | 家屋の倒壊、ブロック塀の崩壊の恐れあり |
| ⑨ | 交通量が多いため歩行困難 |
| ⑩ | 石段の崩れ、柵木の恐れあり |
| ⑪ | 高菜橋の倒壊の恐れあり |
| ⑫ | 古い家が多数あり、屋根が壊れ家屋倒壊の恐れあり、また通電火災の恐れあり |
| ⑬ | 避難階段が急なため、上れない可能性あり |
- ※地区において、想定する避難経路を順路に歩き、注意を要する箇所を図に示しています。



わが家の避難マップ
 想定地震：南海トラフ巨大地震

わが家の避難マップ

想定地震：南海トラフ巨大地震

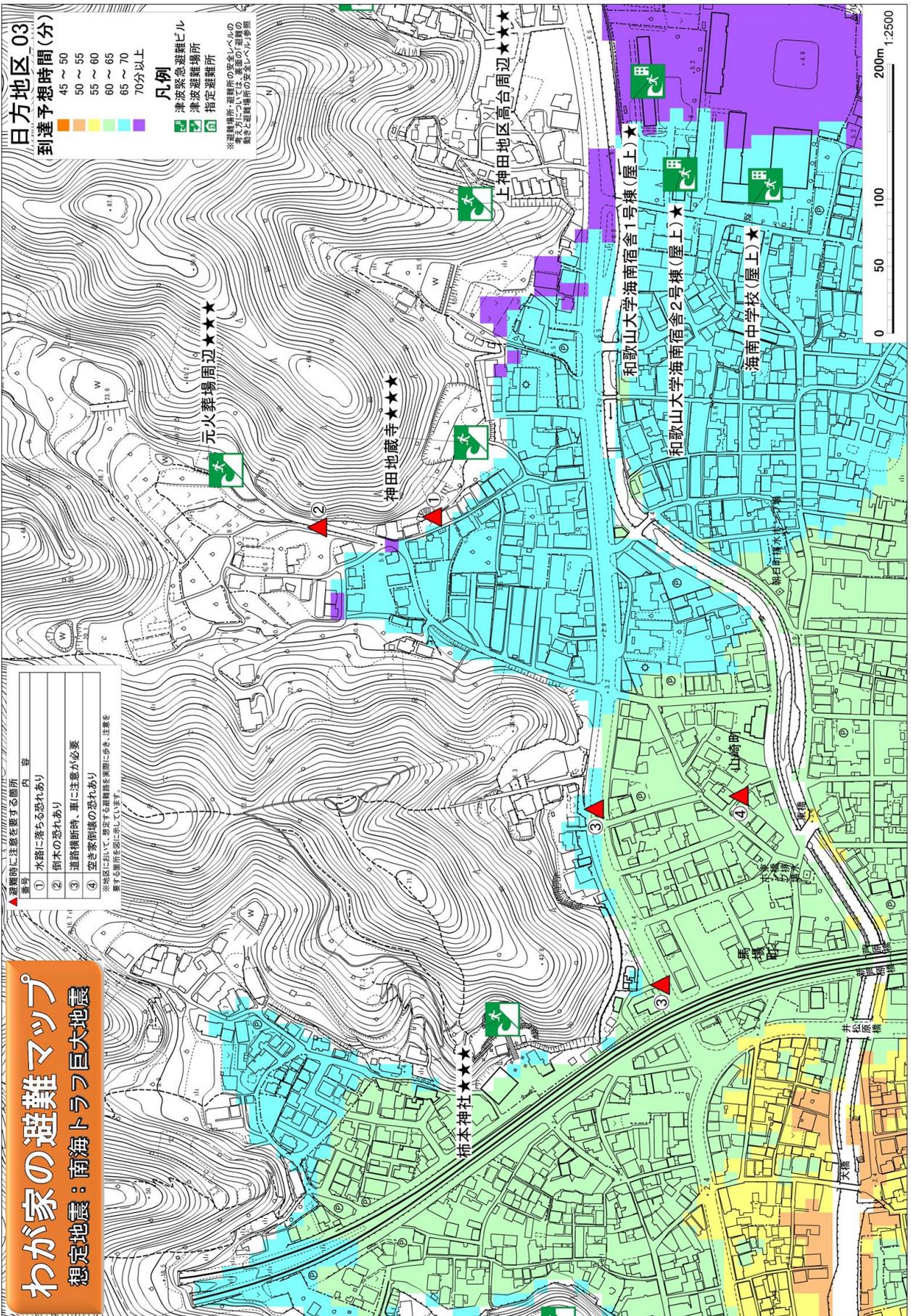
- ▲避難所に注意を要する箇所
- | 番号 | 内容 |
|----|---------------|
| ① | 水路に落ちる恐れあり |
| ② | 樹木の恐れあり |
| ③ | 道路横断線、車に注意が必要 |
| ④ | 空き家倒壊の恐れあり |
- ※地図において、指定する避難所を原則に歩き、注意を要する箇所を原則に示しています。

日方地区 03

到達予想時間(分)

45 ~ 50
50 ~ 55
55 ~ 60
60 ~ 65
65 ~ 70
70分以上

- #### 凡例
- 津波緊急避難ビル
 - 津波避難場所
 - 指定避難所
- ※避難場所・避難所の安全レベルの導入方については、裏面の避難の動きと避難場所の安全レベル参照

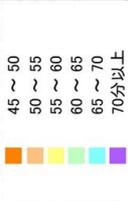


わが家の避難マップ

想定地震：南海トラフ巨大地震

日方地区 04

到達予想時間(分)

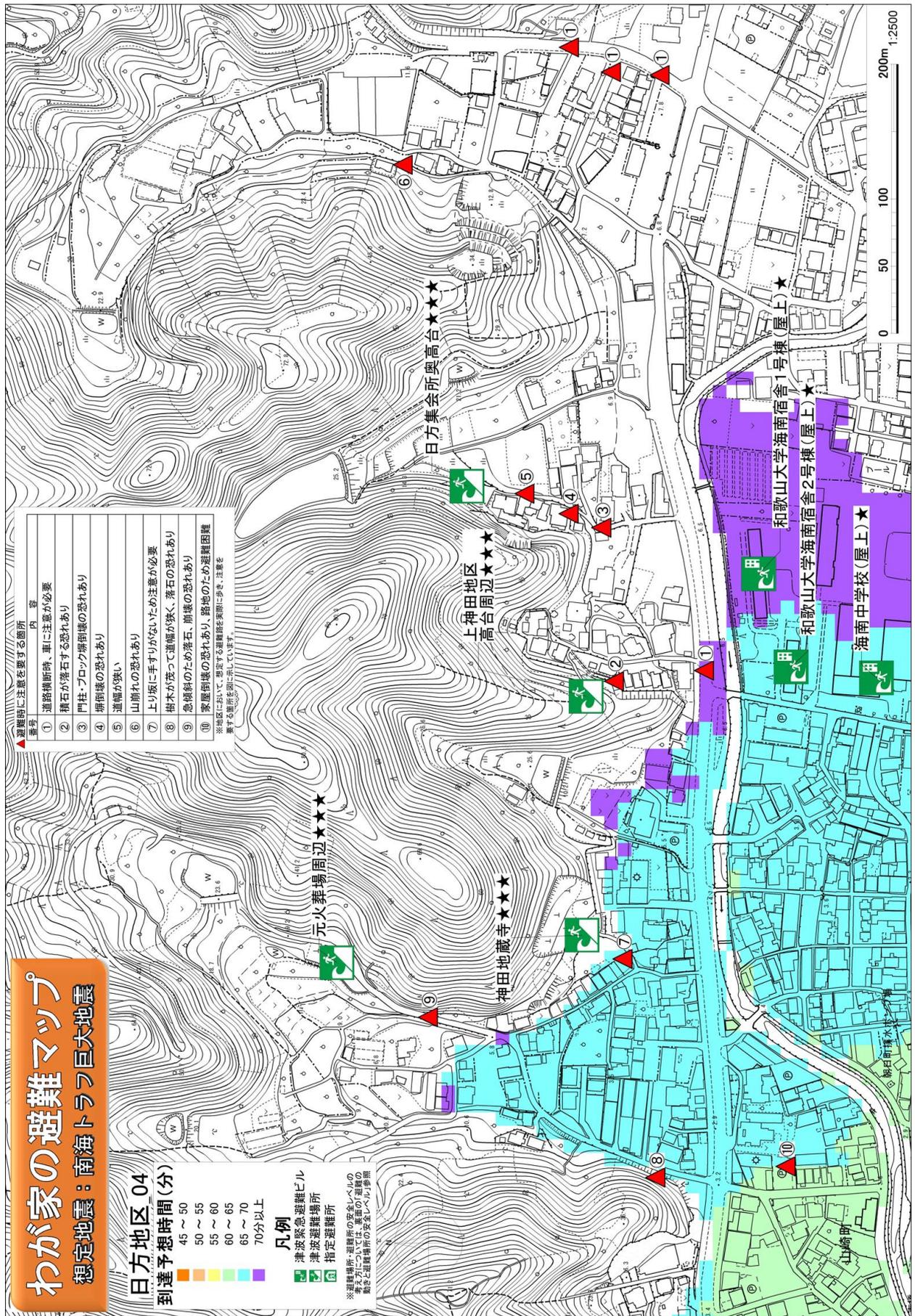


凡例

- 津波緊急避難ビル
- 津波避難場所
- 指定避難所

※避難場所・避難所の安全レベルの考え方については、裏面の避難の動きと避難場所の安全レベル参照

- #### 避難時に注意を要する箇所
- | 番号 | 内容 |
|----|---------------------|
| ① | 道路横断時、車に注意が必要 |
| ② | 積石が落ちる恐れあり |
| ③ | 門柱、ブロッコ餅庫庫の恐れあり |
| ④ | 塀倒壊の恐れあり |
| ⑤ | 道幅が狭い |
| ⑥ | 山崩れの恐れあり |
| ⑦ | 上り坂に手すりがないため注意が必要 |
| ⑧ | 樹木が莖って道幅が狭く、落石の恐れあり |
| ⑨ | 急降路のため落石、崩壊の恐れあり |
| ⑩ | 家屋倒壊の恐れあり、路地のため避難困難 |
- ※地区において、想定する避難経路を實際に歩き、注意を要する箇所を箇に記しています。

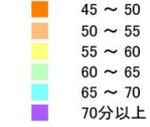


わが家の避難マップ

想定地震：南海トラフ巨大地震

日方地区 05

到達予想時間(分)



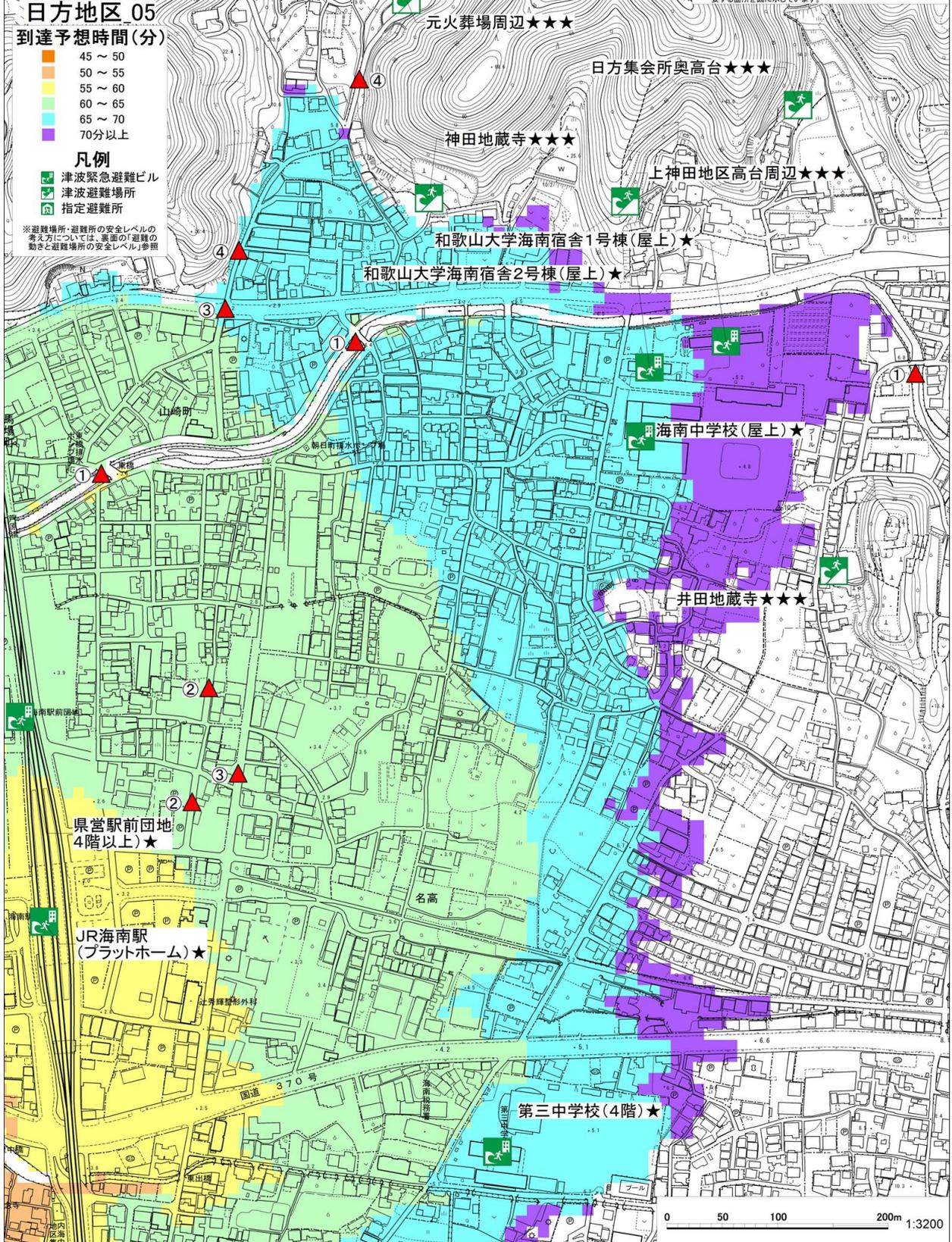
凡例

- 津波緊急避難ビル
- 津波避難場所
- 指定避難所

※避難場所・避難所の安全レベルの考え方については、裏面の「避難の動きと避難場所の安全レベル」参照

▲避難時に注意を要する箇所	
番号	内容
①	橋が崩落する恐れあり
②	舗装していない場所(道路)があり、車椅子等が通れない
③	道路横断時、車に注意が必要
④	山崩れの恐れあり

※地区において、想定する避難路を実際に歩き、注意を要する箇所を図に示しています。



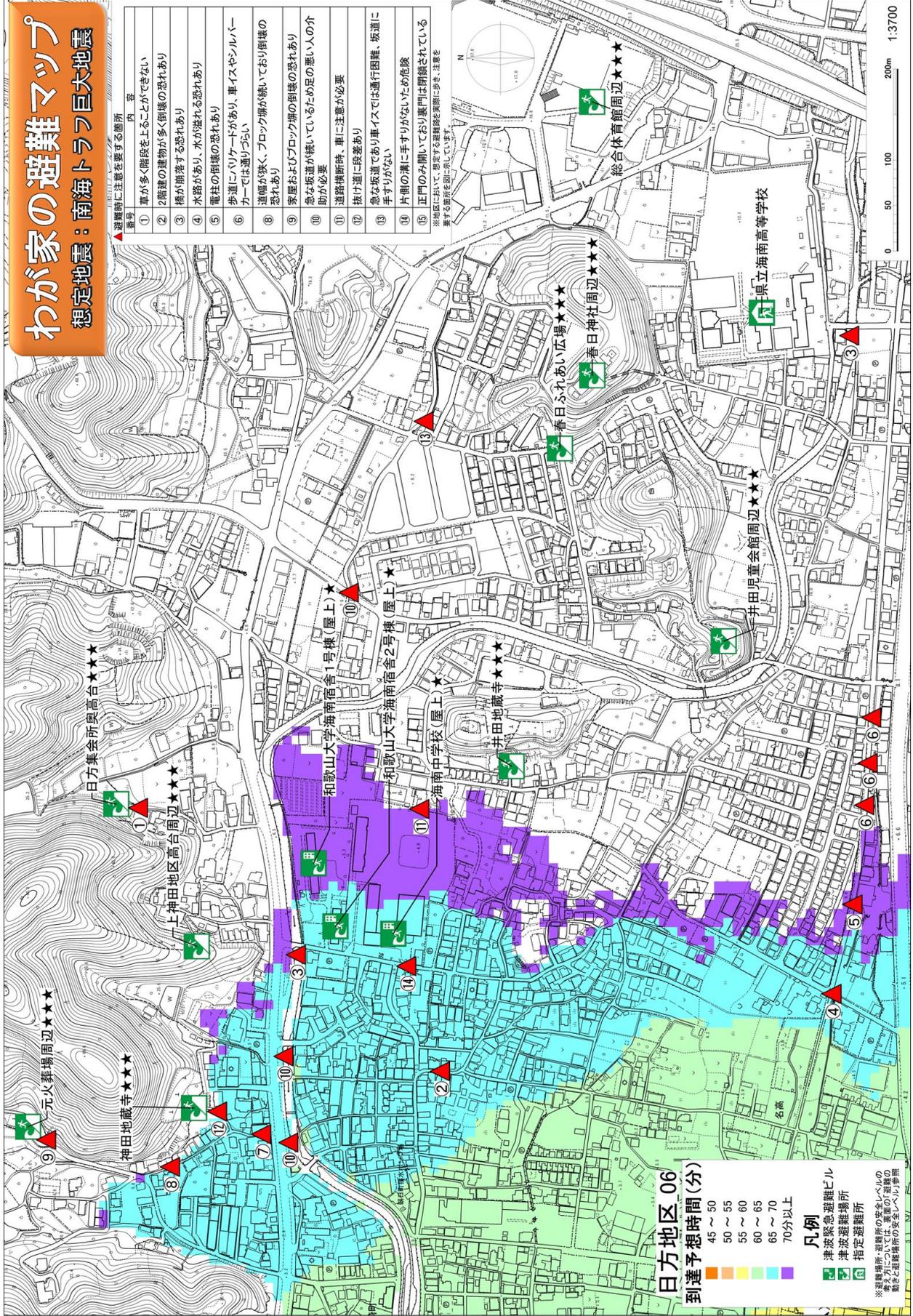
わが家の避難マップ

想定地震：南海トラフ巨大地震

▲避難時に注意を要する箇所

- | 番号 | 内容 |
|----|-------------------------------|
| ① | 草が多く階段を上ることができない |
| ② | 2階建ての建物が多く倒壊の恐れあり |
| ③ | 橋が崩落する恐れあり |
| ④ | 水路があり、水が強れる恐れあり |
| ⑤ | 電柱の倒壊の恐れあり |
| ⑥ | 歩道にバリアードがあり、車イスやシルバーカーでは通りづらい |
| ⑦ | 道幅が狭く、プロック扉が続いており倒壊の恐れあり |
| ⑧ | 家屋およびプロック扉の倒壊の恐れあり |
| ⑨ | 急な坂道が続いているため足の悪い人の介助が必要 |
| ⑩ | 道路横断時、車に注意が必要 |
| ⑪ | 抜け道に段差あり |
| ⑫ | 急な坂道であり車イスでは通行困難、坂道に手すりがない |
| ⑬ | 片側の溝に手すりがないため危険 |
| ⑭ | 正門のみ開いており裏門は閉鎖されている |

※地図において、想定する避難経路を赤線に示し、注意を要する箇所を図に示しています。



日方地区 06
到達予想時間(分)

- 45 ~ 50
- 50 ~ 55
- 55 ~ 60
- 60 ~ 65
- 65 ~ 70
- 70分以上

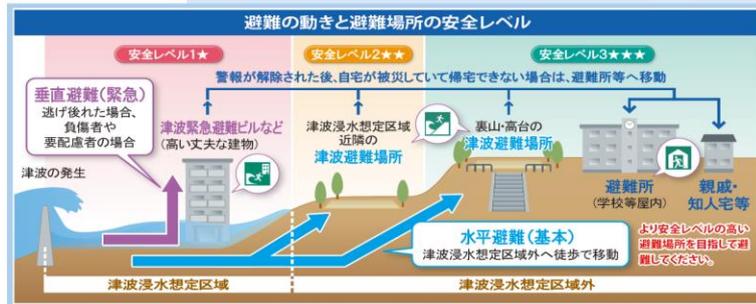
凡例

- 津波緊急避難ビル
- 津波避難場所
- 指定避難所

※避難場所・避難所の安全レベルの
高さと避難場所の安全レベルは
高さと避難場所の安全レベルは

(啓発面)

地震・津波災害時の避難行動



津波警報・注意報の発表内容

津波による災害の発生が予想される場合には、気象庁より「津波警報」等が発表されます。通常、予想される津波の高さは5段階の数値で発表されますが、マグニチュード8を超えるような巨大地震の場合、まずは「巨大」や「高い」という言葉で発表し、非常事態であることを伝えます。

種類	大津波警報 (特別警報)	津波警報	津波注意報
予報される津波の高さの発表	10m超	10m	5m
数値での発表	巨大	高い	(表記しない)

津波緊急避難ビル: 津波到達までに津波浸水域外に避難できない方が緊急に避難する建物

津波避難場所: 津波の危険から逃れるために緊急に避難する場所

指定避難所: 一時的な避難生活場所

避難にかかる時間を想像しよう

(実際の災害時は想定どおりの避難ができない場合もあるため、おおよその目安にしてください。)

① 避難する場所	③ 自宅付近に津波が到達する時間	⑤ 避難場所への移動以外に行うことの内容・かかる時間	⑥ 避難にかかる時間 (④+⑤)
	約 分	内容	約 分
		時間	分
② ①の避難場所から避難所への移動	④ ①の避難場所までの移動時間		分
	約 分		分
			分
			分

⑦ 近隣の要配慮者の支援の内容

3. 第3回防災研修会

1. 概要

日時	平成29年10月10日（火）19:00～21:00
場所	海南保健福祉センター 2階 多目的ホール
参加者	地区参加者 74名（うち消防団2名） 日方小学校2名（校長、教頭）、社会福祉協議会 2名 合計 78名
内容	1. 訓練当日のスケジュール・内容について ・危機管理課より訓練当日のスケジュール、実施内容について説明 2. 日方小学校の取組について ・日方小学校より、当日の訓練及び講演会の実施内容について説明 3. 要配慮者の支援方法について ・市より要配慮者の避難支援例について説明 ・社会福祉協議会より要配慮者への具体的な支援方法及び車イスの使用方法について、地区参加者の実演とともに説明 4. 訓練までの準備事項等について ・訓練までに各家庭用での「わが家の避難マップ」の配布及び作成を依頼

2. 実施風景



日方小学校の説明



社会福祉協議会の説明



車イス使用方法の説明



実演の様子



実演の様子



会長挨拶



会場の様子



会場の様子

3. 日方小学校防災学習会

1. 概要

日時	平成 29 年 8 月 29 日 (火) 13:50~15:25
場所	日方小学校 教室
参加者	5年・6年生児童 校長、教頭、5年・6年生担当教諭
内容	1. 震災・学校支援チーム (EARTH) 員による講話 テーマ「災害が起きたら」 震災・学校支援チーム (EARTH) 山路 摩美子 氏 ・本市に想定される災害や、過去の震災等の避難所生活の移り変わり、災害時における心のケアの方法について教示

2. 実施風景



防災学習会の様子 (5年生)



防災学習会の様子 (6年生)

4. 防災訓練

1. 概要

日時	平成 29 年 11 月 12 日（日） 9:00～10:10
場所	日方地内
参加者	地区参加者(小学生含む) 1,088 名 ※日方小学校生徒は、授業として、自宅より避難訓練を実施 訓練スタッフ 消防団 25 名 市職員（津波緊急避難ビル配備職員） 23 名 合計 1,136 名
内容	津波避難訓練 （テーマ）わが家の避難マップに記入した避難行動 研修で検討した地区での取組（体制と行動）に則した訓練 要配慮者の避難支援

2. 訓練時の状況

（1）城山集会所周辺、（仮称）池崎山津波避難場所 付近



避難場所（城山集会所）の様子



車イスの段差移動検証の様子



避難場所（池崎山津波避難場所）への避難



避難場所（池崎山津波避難場所）の様子

(2) 柿本神社付近



避難場所（柿本神社）への避難



避難場所（柿本神社）への避難



避難場所（柿本神社）前の様子



打合せの様子

(3) 神田地蔵寺 付近



避難場所（神田地蔵寺）への避難



避難場所（神田地蔵寺）の様子

(4) 元火葬場周辺 付近



避難場所（元火葬場周辺）への避難



避難場所（元火葬場周辺）への避難



避難場所（元火葬場周辺）の様子



避難場所（元火葬場周辺）の様子



避難後のミーティングの様子



避難後の避難者確認の様子

(5) 海南中学校、総合体育館周辺 付近



避難場所（総合体育館周辺）への避難



車イス避難の様子



避難場所（総合体育館周辺）への避難



避難場所（総合体育館周辺）の様子



避難場所（総合体育館周辺）の様子



消防団の活動の様子

5. 日方小学校防災講演会

1. 概要

日時	平成 29 年 11 月 12 日（日） 13:40～14:40
場所	日方小学校
参加者	5年・6年生児童、保護者、日方地区住民
内容	1. 市職員による講演 演題「海南市に想定される地震・津波災害と災害ボランティアから学んだこと」 危機管理課 副主任 的場 健 氏 2. 県教育庁職員による講演 演題「危険から身を守るために」 和歌山県教育庁 学校教育局 健康体育課 防災安全班 指導主事 河越 信哉 氏

2. 実施風景



市職員による講演



県教育庁職員による講演

6. 訓練報告会

1. 概要

日時	平成 29 年 11 月 30 日 (木) 19:00~21:00
場所	海南保健福祉センター 2階 多目的ホール
参加者	地区参加者 39 名 日方小学校 (校長、教頭) 2 名 計 41 名
内容	1. 主催者挨拶 2. 小学校からの報告 ・日方小学校より、訓練参加状況や参加児童の感想の報告 3. 訓練当日の地区の取組について各地区の報告 ・「振り返りシート」を使用し、各地区で発表 ・地区代表者による全体発表 4. 訓練について市からの報告 ・重点地区防災訓練結果や要配慮者支援の取組、他地区・他市町村の訓練事例(「避難カード」の活用など)、海南市が実施している事業について紹介・報告

2. 実施風景

(1) 主催者、小学校の報告



主催者挨拶



小学校からの報告 (校長)

(2) 各地区の発表の様子



1区 (千原1、千原2、千原3、千原4
千原5、千原6、千原7)



2区 (東雲、共栄、海中前
和大宿舎寮、新生町)



3区 (上芦原1、上芦原2、下芦原
井引、朝日町)



4区 (上神田、神田丸尾会、親和会、中神田1
中神田2、日方東、大江住宅)



5区 (井松原、駅二、県営海南駅前団地
日海、貴礼都、今市、新浜)



6区 (池崎1組、池崎2組
池崎3・4組、池ノ丁)



7区（里之丁、宮前、南之丁
御門、奥之丁）

（3）訓練について市からの報告や会場の様子



市からの報告



会場の様子

3. 訓練参加自主防災会の振り返り結果

※取組結果である「振り返りシート」の内容をそのまま掲載

地区	避難 中 避難 後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な 行動> どのように 行う	訓練に て取組 を实践 したか	訓練の結果(実践でき なかった場合は、その 理由(課題))
千 原 1 組	避難中	地区住民の安否確認	～15分後	班長およびとなり近所の声かけ	海南中学校前 人数の確認	○	集合時と途中1か所と総合体育館にて各班長が点呼をとり副会長に報告、安否確認を確実に実施した。
	避難中	地区住民の声かけ	～15分後	自治会全員	大きく声を出しながら集合場所に行く	×	今回は訓練とすることもあり参加者すべて自主的に集合場所に集まった。
	避難中	要配慮者の支援	～15分後	家族と近隣の人	家族が家に居る時は家族で、留守の時は近隣の人	○	家族の人が中心に車椅子を使用し自力では避難が困難な人も最後まで参加した。車椅子を押す人も何人か交代しながら貴重な経験を得ることができた。
	避難中	救助・救出	～30分後	気づいた人	出来る範囲で救出する	×	今回は全員無事と言う前提のもと避難訓練を行ったため、救助や救出という取組みはしなかった。
	避難後	避難場所での避難者の確認	～45分後	自治会全員	点呼をとる	○	避難場所で点呼を実施。各班長が班員の安全を確保後、副会長へ報告。副会長から会長へ報告と取り決めていた手順にて実施できた。
	今後、地区で取り組んでいくこと(または予定)	<p>○今回の訓練については、全員無事、自力で集合場所に集ったという設定のスタートだったので、次回からは、ケガをした人がいる、集合場所に集まらない等を設定して訓練を実施したい。</p> <p>○昨年度から取り組みを行っている各家庭への防災物品の配布、自治会へ救助用の資機材の充実をさらに進めて行きたい。</p> <p>○複数の避難場所を知っておく必要があるので、次回は別の場所に避難することも検討する。</p>					

地区	避難中 避難後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な行動> どのように行う	訓練にて取組を 実践したか	訓練の結果（実践できなかった場合は、その理由（課題））
千原2組	避難中	地区住民の安否確認	～15分後	会長だけしかいなかった5つの班長から全員に参加協力するも非協力的	班の集場所に集まらず未確認	×	30分後井田地蔵に行くとき約10名ほど(男女)避難していたが、点呼はしていない。(千原の方や別の地区の方もおられた)
	〃	地区住民への避難の声かけ	～15分後	会長だけ1人	家の近くの住民に避難して下さいと声を掛けました。井田地蔵寺又は中学校に避難して下さいと言いました。	×	避難時間に余裕があれば津波到着時間が遅ければもう少し遠くのわんぱく広場や赤坂台まで逃げられる
	〃	救助、救出		出来ない	救助道具などなし	×	車イスや担架などの資機材の保管場所がわからない。(海南中学校にあると思う)班では用意していない
	〃	要配慮雄者の避難支援		千原2組に障害者や足の悪い人がいるか確認とれず	よってその人の家へ声かけ避難しようにも、わからず	×	障害者や足の悪い歩行困難な方が避難して、海南中学校の屋上へ、避難するには非常階段を上らなければならず難しい、また、井田の地蔵寺の丘に登るにも、急な坂であるため難しい。
	避難後	避難場所での避難者の確認				×	
		今後、地区で取り組んでいくこと（または予定）	地震や津波が実際に来て見ないと行動してくれない。防災の意識が低調。今回の訓練でも、この地区の住民でも参加したのは約50名以下、役を持っている会長だけしか活動していない。他の班長とか下部の人達まで伝達がない。会長が班長に指示伝達してもすべての行動の参加に非協力的、市からも積極的に班長に活動してもらうよう直接的に文書等をながし、末端の人達にも参加するよう指導してください！				

地区	避難 中 避難 後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な 行動> どのように 行う	訓練に て取組 を实践 したか	訓練の結果（実践でき なかった場合は、その 理由（課題））
千 原 3 組	避難 中	となり近 所の安否 確認	～10 分	自治会の班・ 隣近所の住 民	・集合場所で 確認 ・情報収集	△	・組長が確認。出て きた人だけ ・収集なし
	避難 中	避難の声 かけ	～10 分	自治会の班・ 隣近所の住 民	安否確認出 来ない家に 声かけ	×	
	避難 中	救助・救 出	～15 分	自治会の班・ 隣近所の住 民	出来る範囲 で救出する		救助資材無し
	避難 中	要配慮者 の避難支 援	～15 分	自治会の班・ 隣近所の住 民	出来る範囲 で救出する	○	ベッドに寝ているの で外までは無し。声 かけのみ
	避難 後	避難場所 で避難者 の確認		・自治会 ・各自	・点呼をとる ・情報収集	○	・大人4人、子供1 人 ・海南中学校階段の 入口で市職員の方に 地震解除ボックスの 説明を受けて井田地 蔵寺に行く。
	避難 後	避難所へ の移動		・自治会 ・集まった者 で	安全を確認 しながら移 動	△	行かなかった。 避難所は海南高校の 説明をする。
		今後、地区で取 り組んでいくこ と（または予定）	<ul style="list-style-type: none"> ・全般に防災意識は低い。 ・お年寄りが多いので参加させにくい。 				

地区	避難 中 避難 後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な 行動> どのように 行う	訓練にて 取組を 実践 したか	訓練の結果（実践できな かった場合は、その理由 （課題））
千 原 4 組	避難 中	地区住民 の ・安否確 認 ・声かけ	～15 分後	近所同士 で	声をかけ合 う	△	参加されない2班の方 には声をかけずに終わ った。
	避難 後	避難所 での確認	45分 後以降	自治会と して	点呼をとる	○	4軒5名を確認し行う ことができた。
	今後、地区 で取り組ん でいくこと （または予 定）	要配慮者の確認					

地区	避難 中 避難 後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な 行動> どのように 行う	訓練にて 取組を 実践 したか	訓練の結果（実践できな かった場合は、その理由 （課題））
千 原 5 組				決めて いませ ん。	大きな声 をかけな がら避 難する ぐらい が今の 所と思 って います。	早足で歩 くのが やと 物を持 つて いると どう なる のか？	足の悪い 人が家 の外に 出て来 るまで 、時間 がだい 分か かるの で、そ の時点 でどの 様に した らいい のか、 今から 分か りませ ん。
	今後、地区 で取り組ん でいくこと （または予 定）						

地区	避難中 避難後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な行動> どのように行う	訓練にて取組を実践したか	訓練の結果（実践できなかった場合は、その理由（課題））
千原6組	避難中	避難者の安否確認	～5分後	防災会長	第1集合場所を確認	○	
	避難中	各戸へ声掛け	～5分後	防災会長 自治会会員	集合場所に早く到着した者、最終は防災会長	○	
	避難中	安全確認しながら移動	～25分後	避難者で声を掛け合う		○	
	避難後	避難者の確認	～30分後	防災会長	点呼をとる	○	
	今後、地区で取り組んでいくこと（または予定）		・今回は要支援者や救護者の役者が無くて移動はスムーズに行われたが、次回は想定した訓練が必要かも、事前に訓練日に不参加の理由（通知）有り、又、不参加者も集合場所迄来てくれたので安否確認は素早く出来たが？				

地区	避難中 避難後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な行動> どのように行う	訓練にて取組を実践したか	訓練の結果（実践できなかった場合は、その理由（課題））
千原7組		集合場所での確認	5分後	全員	・集まった顔ぶれを見て確認 ・大きな声でかけ合う	○	
			10分後	全員	・持出袋の確認 ・ブレーカーを落とす ・戸締り	△	◎日方小の生徒が居られたので、登校時間のこともあり、三中へ、その後、五組、六組と合流し海南高校へ
		避難中	30分後	全員	海南高校へまっしぐら	○	
	今後、地区で取り組んでいくこと（または予定）		・当地区では高齢者や身体の不自由な人が多く、足並み揃えては無理。 ・近くに高い建物が無いので逃げる場所を作って欲しい。（例えば池崎に作った様な物）				

地区	避難中 避難後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な行動> どのように行う	訓練にて取組を実践したか	訓練の結果（実践できなかった場合は、その理由（課題））
東雲	災害後	各自近隣の安否確認	～10分後	防災班長が担当	各防災班長が近隣見回り	△	避難時間がまちまちで一部の人達が確認出来ず
	避難準備	近隣の状況確認	～10分後	防災班長など	①避難するよう呼びかけ ③要配慮者の安否確認	○	避難出来てる様に見える 要支援者を車椅子に乗せ避難 要支援者で足が悪い人は海南中学に避難
	避難中	声掛けしあう	～20分後	各自	声かけながら避難	○	各自が避難しながら声かけをしていた様に思われる
	避難後	避難場所での避難者の確認	～40分後	自治会員及び防災班長	自治会内の班長より点呼	○	新しい世帯の人達がいいたので点呼にすこし時間がかかった。
	避難後	各部所での役割分担	～45分後	防災会長及び防災班長	集合してきた避難者と話し合い 統括班・情報班・救助班を作る	△	避難者達と話し合ったが役割分担迄は行かなかった。
	今後、地区で取り組んでいくこと（または予定）	<p>先日の訓練では大勢の人達に連絡事項を話したが、後の人達には聞こえづらかったと聞いた。</p> <p>今後拡声器を購入する予定。災害が起こった場合は電源ブレーカーを落としプロパンガスのボンベの栓を締めるよう指示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車椅子にて異動するのに元火葬場跡の坂道は道は悪く登りづらかった（一人では車椅子は無理） ・学校の先生が中に入っていたが名札がないので名前を聞いた（名札を付けてほしい） 					

地区	避難中避難後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制>誰が	<具体的な行動>どのように行う	訓練にて取組を実践したか	訓練の結果(実践できなかった場合は、その理由(課題))
共栄			15分	自治会長	避難場所での人員の確認	同一自治会員の人員を試べ確認 11人	防災意識の低さに心痛しております。
			30分	自治会長	お互いの人員を確認ができたなら水や食料品の心配と季節に合った衣服にも配慮しなければならない		
			45分	健康な人	要配慮者があれば複数人で救助に向かう	当自治会で要配慮者は3名今回は実施せず	
			45分後	自治会長	全員の人数を再確認	11人の再確認	
			警報解除後の時間後	自治会長	避難所への移動を開始	避難場所にて解散	今回の訓練では避難所への移動は実施しませんでした。但し避難所は口頭で説明しております。
		今後、地区で取り組んでいくこと(または予定)	共栄自治会では回覧板に避難場所を書いて貼っており、お互いに自分の避難場所は充分判って居ると思います。				

地区	避難 中 避難 後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な 行動> どのように 行う	訓練に て取組 を实践 したか	訓練の結果（実践できな かった場合は、その理由 （課題））
海 中 前	避難前	どの家が 何人参加 か不参加 の家はど こかの確 認		自治会長	集合場所を 決めておき 人数確認す る	○	
	避難中	参加する 人が全員 きている か遅れて いないか	～15 分後	自治会長 仮の班長	声をかけあ う	○	集合場所に集まれな かった世帯に声かけをす る
	避難中	避難場所 (総合体 育館)人 数がそろ っている か	～30 分後	自治会長	遅れて歩い てきている 人がいない か人数の確 認点呼をと る	○	
		避難場所 (総合体 育館)	～45 分後	自治会長	参加者の安 否確認	○	
		避難場所	1時間 後	自治会長	確認できた ら解散をみ んなに伝え る	○	
		今後、地区 で取り組ん でいくこと (または予 定)	要支援者の避難手伝いをどのようにするか話し合いの場をもち、どのようにすればよいか検討する。				

地区	避難 中 避難 後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な 行動> どのように 行う	訓練に て取組 を实践 したか	訓練の結果（実践できな かった場合は、その理由 （課題））
和 大 宿 舎 寮	避難 中	地区住民 の安否確 認	サイレ ンにて 大津波 襲来ア ナウン ス後	自治会長	避難所（上 神田墓地） にて避難し た人を確認	○	・会長含め3人の避難を 確認 ・宿舎屋上に避難した方 を後日アンケートにて 確認した
	今後、地区 で取り組ん でいくこと （または予 定）	特になし					

地区	避難 中 避難 後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な 行動> どのように 行う	訓練に て取組 を实践 したか	訓練の結果（実践できな かった場合は、その理由 （課題））
新 生	避難 中	地区住民 への声か け	～15 分	各々に	・声をかけ ながら避難 する ・ホイッス ル等を各家 庭に配布 ・拡声機（サ イレン付）	○	○各家庭の在宅を確認 しながら声かけ ○避難場所が2か所（海 南中学校、元火葬場）も 有ったので副会長と手 分けして確認出来た。 ○車イス（手押し車）で の避難者にはゆっくり と余裕を持って行動す る様に声かけ
	避難 後	避難場所 での避難 者の確認		自治会長 等で	ケガの状況 含む	△	○避難ルートでの状況 を説明しながら移動
	今後、地区 で取り組ん でいくこと （または予 定）	○集合場所に遅れて来た人が同じ地区の人々の集いがすぐに解る様に地区代表者が地区名の書いたゼッケン（ベスト）等を装着しておく。 ○防災グッズの購入を検討（ホイッスル、拡声機）					

地区	避難 中 避難 後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な 行動> どのように 行う	訓練に て取組 を实践 したか	訓練の結果（実践できな かった場合は、その理由 （課題））
上 芦 原 1 組	避難中	自治会員の安否確認	～15分	各班事	集合場所に集まり確認（海南精密跡地）	○	所定の場所に集合し防災会長が各班事に挙手により、点呼を取り安否確認をした。
	避難中	避難の声掛け	～15分	隣近所各班長	グループになって避難する	○	防災会長が最後尾にまわり、脱落者がいないか確認をとりながら避難をした。
	避難中	救助・救出	～30分	班、自治会全体			取組ができなかった。
	避難中	要配慮者の避難支援	～45分	班、自治会全体			取組ができなかった。
	避難後	避難場所での避難者の確認	45分以降	班、自治会全体		×	今回の訓練では参加してもらえなかったが避難支援を希望する意見があったので、次回は対応方法を考え実践したい。
	避難後	避難所への検討	45分以降	班、自治会全体	照会する	○	作成をしている安否確認分担表と照会して防災会長が確認をとった。
		今後、地区で取り組んでいくこと（または予定）	要避難支援者の対応方法				

地区	避難 中 避難 後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な行動> どのように行う	訓練にて取組を実践したか	訓練の結果（実践できなかった場合は、その理由（課題））
上 芦 原 2 組	避難中	地域住民の避難状況	～15分後	各人で行動	J R 海南駅に直接避難	○	避難状況（人数）等は報告のとおり、不参加者については、自主的な判断を尊重する「自分の命は自分で守る」のが大原則であり、それに基づく多少の人的被害は止むを得ない。
							地区住民の安否確認は出来ない。実際災害が発生した時は、自分自身の生命が不確実である。
	避難中	要配慮者の避難		家族で行動	〃	○	当地区の要配慮者は3名（市からの要望者）内2名は、家族で行動を伴にする。1名は歩行可能により訓練に参加以外の高齢者は家族等の自主的判断に委ねる
	今後、地区で取り組んでいくこと（または予定）	南海地震は、今後30年以内に発生する可能性は少ないと考えられる。仮に発生したとしても小規模の津波となり4m前後と思われます、30年後になると当地域の人口は半減し、高齢者ばかりの地域となります。その時の避難はどうするのか、それよりも中央構造線の大地震が待った無しで発生する可能性があります。直下型地震で甚大な被害が発生します。喫緊の課題として考える必要があります。					

地区	避難 中 避難 後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な行動> どのように行う	訓練にて取組を実践したか	訓練の結果（実践できなかった場合は、その理由（課題））
下 芦 原	避難中	県営住宅駅前団地に集合（声かけ）	9時～15分	自治会の安否確認		初めての重点地域訓練だったので、思う様にできなかった。	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡がうまく届いて、いなかったのでは、ないか。 ・今後避難等について、十分な連絡体制をとっていきたい。
			声を出しながら				
	避難後			〃			
		今後、地区で取り組んでいくこと（または予定）					

地区	避難 中 避難 後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な 行動> どのように 行う	訓練に て取組 を实践 したか	訓練の結果（実践できな かった場合は、その理由 （課題））
井 引	避難 中	近所の人に避難の 声かけ	～30分 まで	自治会員	声を掛けな がら集合場 所に集まる	△	集合場に集合し、30分后、 一斉に避難場所に行き人 数の確認する。
	避難 後	人数の確認	40分ま で	自治会長	点呼を取る	○	市職員に人数報告。
	今後、地区 で取り組ん でいくこと （または予 定）	避難場所の変更はしない。					

地区	避難 中 避難 後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な 行動> どのように 行う	訓練に て取組 を实践 したか	訓練の結果（実践できな かった場合は、その理由 （課題））
朝 日 町	避難 中	地区住民 の安否確 認	～10 分後	自治会 1組から9 組のみな さんが	自治会で決 めている場 所に集まり、 確認する	○	自治会で集合場所を決 め、1組から9組のみな さんが、おのおので集合 しました。 自治会長が目視で人数 を数えました。
	〃		～15 分後	〃	健康確認し た上で避難 場所に出発	○	避難場所まで歩くこと が困難な人は、家にもど りました。（避難場所に 行く人数50人。）
	〃		～20 分後	〃	避難途中の 危険な箇所 で、説明呼び かけ身の安 全確保の啓 発をする	○	橋、道路、山くずれ箇所 など。 危険な場所で、立ち止まり 啓発しました。
	避難 後		30分 後以降	〃	他の地区の 方と少し離 れた場所に 集まっても らい人数を 確認する	○	自治会長が目視で人数 を数えました。 健康を確認した上で解 散し、おのおの家にもど りました。
	今後、地区 で取り組ん でいくこと （または予 定）	朝日町は、自主防災の取り組みが思うように進んでいないので、今後、少し ずつでも計画的に進めていく必要がありますが、取り組み等、具体的には未 定です。					

地区	避難 中 避難 後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な 行動> どのように 行う	訓練に て取組 を实践 したか	訓練の結果（実践できな かった場合は、その理由 （課題））
上 神 田	避難中	家族の安否確認	～15分後	各家庭	声掛けしながら避難する	△	各家庭、家族の安否確認は出来たが家庭の都合、体調不良、仕事等により全員参加できなかった（防災意識の向上要す）
	避難中	地区住民の安否確認	～15分後	各班、役員及び班長	声掛けし避難する	△	班長及び役員が声掛けしながら避難を促しながら避難したが全員参加できなかった。（防災意識の向上要す）
	避難中	地区住民の避難、声かけ	～30分後	各班、役員及び班長	声掛けし避難する	△	班長及び役員が声掛けしながら避難を促しながら避難したが全員参加できなかった。（防災意識の向上要す）
	避難中	救助・救出	～30分後	地区住民全員	声掛けし避難する	○	要支援者の方に声掛けし避難時は手つなぎ等必要な支援をしながら避難をした。要支援者の方は全員避難できた。
	避難後	避難場所での避難者の確認	～45分以降	各班、役員及び班長	点呼をとる	○	各班長が各避難場所で点呼をとった。各班長はその結果を自治会長に報告した。
		今後、地区で取り組んでいくこと（または予定）	当自治会は毎年、役員及び班長が変わるので今後（今年度の役員今等では少しでも防災意識の向上を図るべく対話をして行く） 次年度の役員及び班長には海南市役所危機管理課及び日方地区連合自治会の指導のもと防災意識の向上を計る様に申し送りしたいと思っている。				

地区	避難 中 避難 後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な 行動> どのように 行う	訓練に て取組 を实践 したか	訓練の結果（実践できな かった場合は、その理由 （課題））
神 田 丸 尾 会	避難 中	・地区住 民の安否 確認 ・声かけ ・救助	～30 分後	自治会 の 各班	集合場所 での確認 安否 確認でき な かった家 に 声かけす る	△	避難場所が近いこともあ って集合場所を決めず各 自家から直接避難場所へ 向かった
	避難 後	・避難場 所での避 難者の確 認 ・避難所 への避難 の検討	～45 分後	自治会、各 班	点呼をと る 浸水区域 外を通り 移動す る	△	班長が不在だったことも あり自治会長が避難者の 点呼をとった。
	今後、地区 で取り組ん でいくこと （または予 定）						

地区	避難中避難後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制>誰が	<具体的な行動>どのように行う	訓練にて取組を実践したか	訓練の結果（実践できなかった場合は、その理由（課題））
親和会		安否確認	～15分後	各班で確認	集合場所に集まり確認	○	不参加 仕事2件、不在1件 防災意識の向上
		声かけ	～15分後	各自（元気な人）	①声をかけながら避難 ②安否確認できなかった家に声かけ	○	
		救助救出	～15分後 ～30分後	〃	出来る範囲で救出する	×	
		要配慮者の避難支援	～30分後	〃	自宅から外へ連れ出して付添で避難	○	
		避難	～45分後	〃	点呼をとり避難場所へ移動	○	
		避難者の確認	61分後			○	
		今後、地区で取り組んでいくこと（または予定）	車いすでの訓練 ○ブレーカーダウン ○プロパンガスの元栓を締める ○防災意識を高め少しずつ取り組むように進めていく。				

地区	避難 中 避難 後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な行動> どのように行う	訓練にて取組を実践したか	訓練の結果（実践できなかった場合は、その理由（課題））
中 神 田 1 組	避難中	家族の安否確認	地震発生後～15分	家族	電話やメールで確認	×	二人共、一緒に家にいたから
	避難中	地区住民の安否確認	〃	自治会長 班長など	①声をかけながら避難する②安否確認できなかった家に声かけする	×	事前にどちらの避難場所に行かれるかは確認していたが当日は声かけしなかった。
	避難中	地区住民への避難の声かけ	〃	〃	①声をかけながら避難する②安否確認できなかった家に声かけする	×	〃
	避難中	救助・救出	地震発生後～30分	〃	①できる範囲で救出する	×	救助される役などを、決めてなかった為、取組ができなかった。
	避難中	要配慮者の避難支援	地震発生後～45分	〃	①声をかけ自宅から外へ連れ出して付き添いで避難	△	声かけをしましたが、今回は参加されなかった。
	避難後	避難場所での避難者の確認	45分後以降	自治会長 班長など	点呼を取る	○	あらかじめ中神田1のプラカードを作成し、当日プラカードの下に集まってもらった。
		今後、地区で取り組んでいくこと（または予定）	○防災意識の向上が必要。 ○地域内のコミュニケーションが大切 ○自治会長が順番制なので、今回の様な重点地区防災訓練は毎年必要と思います。				

地区	避難 中 避難 後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な 行動> どのように 行う	訓練に て取組 を实践 したか	訓練の結果（実践できな かった場合は、その理由 （課題））
日 方 東	避難 中	・避難時 の声か け ・救助	～15 分後	自治会役 員・班長	安否確認を 行いながら 避難する	×	○避難時間が気になり、 安否確認は集合して後 となる。 ○避難場所へ近いので 切迫感が少ないのでは。
	避難 後	各避難所 で代表者 が確認	～30 分後	同上 その折の 代表者(各 自)	一ヶ所に集 まるように	△	○個人々の避難場所に 対する考えが違う
	今後、地区 で取り組ん でいくこと (または予 定)	○救助等に要する資機材の置く場所が、なかったため今後捜す。 ○津波避難場所（野田氏宅周辺）より上部の山道の整備					

地区	避難 中 避難 後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な 行動> どのように 行う	訓練に て取組 を实践 したか	訓練の結果（実践できな かった場合は、その理由 （課題））
大江 住宅	避難 中	地区住民 の安否確 認	～15 分後	自治会 の班 など	回りを確認 して、安否確 認	○	
	〃	地区住民 への声か け	～15 分後	自治会 の班 など	・声をかけな がら避難す る ・安否確認で きなかつた 家に声かけ する	△	訓練に参加しない（出て こない人）には声を掛け なかつた
	〃	救助、救 出	～30 分後	自治会 の班 など	・出来る範囲 で救出する	×	今回の訓練では、ケガ人 等の役割をつけなかつた
	〃	要配慮者 の避難支 援	～30 分後	自治会 の班 など		×	自分で歩けない要配慮 者はいない
	避難 後	避難場所 の避難者 の確認	60分 後	自治会、班 など	点呼を取る	○	
		今後、地区 で取り組ん でいくこと （または予 定）	地区の話合いには至っていない。 今のところは取り組むことはない。				

地区	避難 中 避難 後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の 取組の 想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な 行動> どのように行う	訓練に て取組 を实践 したか	訓練の結果（実践で きなかつた場合は、 その理由（課題））
井 松 原	避難 中	地区住 民の安 全確認	～15 分後	自治会の班な ど 1 情報班・広報 隊 2 避難誘導班 3 救出救護班 4 消火班 各役割分担 副会長、会計、 民生委員、各班 長他	①災害対策本部前 に集合 ②南の端の人から 声をかけながら災 害対策本部前に集 まる	○	直ぐにに対策本部 を立ち上げ、発電機 を設置して照明器 具を点灯し、その場 に。各班は班長のも とに15分以内に 集合した。
	〃	地区住 民への 避難の 声かけ	～15 分後	上記同じ	①繰り返しサイレ ンとマイク放送 （情報収集同時に 行う） ②自治会員は避難 に際し、家族の安 否と隣近所の安 否、避難不能者の 人数や状況を災害 対策本部に報告す る	○	放送を聞き、避難時 は若い人や高齢者 も関係なく班長を 中心に、近隣所に声 かけあいながら本 部前に集合し負傷 者等の報告を受け る。また、情報班、 広報隊（各役員）等 により放送すること ができた。
	〃	救出 救助	～30 分後	上記同じ	①自治会員及び情 報班の情報により 行う。 ②自治会備え付け の救助資機材で救 出する。 ③隣近所で、屋外 へ避難させるとと もに、災害対策本 部前に連れて行く。	○	今回は救助資機材 （チェンソー、パー ル）等を準備するも 被救護者はいなか ったので使用せず。 要求者は、付き添 われ自力で対策本 部前に到着2名（右 前腕部骨折1名、頭 部からの出血1名） を応急手当てをす る。
	〃	要配慮 者の避 難支援	～45 分後	上記同じ	①誘導員により避 難する。 要救助者がいる場 合、応急手当てを し、車いす、担架 等で同時に搬送避 難する ②要求者の安否確 認後緊急避難	○	要求者2名を、三角 巾や滅菌ガーゼ副 木等で手当てをし 車椅子に乗せる。そ の後自治会の旗の もとに全員が出発 し避難地に向かう。

※次ページに続く

地区	避難 中 避難 後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な 行動> どのように 行う	訓練に て取組 を实践 したか	訓練の結果（実践できな かった場合は、その理由 （課題））
井 松 原	避難 後	避難所へ の避難者 の確認	45分 後以降	上記同じ	①班ごとに 点呼をとる	○	避難所に到着後1班、2 班の班長は点呼をとる。 その後自治会の旗のも とに集合し待機する。
	今後、地区 で取り組ん でいくこと （または予 定）	<p>※避難する際各家庭の表の見やすいところに避難済みの表示札を掲げる ようにすると確認の必要が省ける。</p> <p>※訓練に参加されなかった人にも参加するよう自治会から努力する。また、自治会に入っていない方にも避難訓練に参加してほしいと思う。</p>					

地区	避難 中 避難 後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な 行動> どのように 行う	訓練に て取組 を实践 したか	訓練の結果（実践できな かった場合は、その理由 （課題））
駅 二	避難 中	地域住民 の安否確 認	～15 分後	自治会 の班など	班の集 合場所 に集まり 確認。（災 害対策本 部前に集 合）	○	班で集 合場所を 決め班長 が点呼を 各自の安 否と確認 を15分以 内で行う ことがで きた。
	〃	地域住民 への避難 の声かけ	～15 分後	上記に 同じ	声をかけ ながら 避難す る。 集 合場所 に集ま ることが できな かった 世帯の 一部に 声かけ する。	△	放送を 聞き、 避難時 は若い 人や高 齢者も 一緒に 声かけ あいな がら、 本部 前に集 合して 報告を 受ける。 （班の 全世帯 が集 合出来 なかつ た）
	〃	救助・ 救出	～30 分後	上記に 同じ	出来る 範囲で 救助す る。 救助道 具で行 う。	×	救助・ 救出用 の資機 材（バ ールや 担架等） がな かつた。 また救 助され る役を 決めて 行うな ど取組 ができ なかつ た。
	〃	要配慮 者の 避難支 援	～45 分後	上記に 同じ	声を掛 け、旗 を振り 、避難 場所（ 柿本神 社）ま で、歩 いて 避難す る。	○	足の悪 い人も 避難場 所まで 想定時 間内に 避難す る事が できた。
	避難 後	避難場 所での 避難者 の確認	45分 後以降	上記に 同じ	点呼を 取る	○	避難場 所にて 各自の 安否確 認をし て避難 者の人 数の確 認を行 った。
		今後、 地区 で取り 組んで いくこ と（ま たは予 定）	商店の 人が多 く、仕 事で参 加でき なかつ た人が 多かつ たのと 3階、 4階建 ての世 帯の人 は家か ら出な いと伝 わって いた。 もっと 具体的 に状況 を地区 で決め ていき たい。				

地区	避難中避難後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制>誰が	<具体的な行動>どのように行う	訓練にて取組を実践したか	訓練の結果（実践できなかった場合は、その理由（課題））
県営海南駅前団地		地区住民の安否確認	～15分後	自治会・班長(会長副会長)(各階)	集合場所、4階以上において確認	○	各階の班長が自治会長に安否を報告、不在者の確認を15分以内で行うことができた。
		地区住民の避難の声かけ	～15分後	自治会・班長	声をかけながら避難する安否確認できなかった世帯に声かけする	○	体調が悪い等で、外に出て来ない世帯が、3世帯あり、無事ではあったが、避難意識がなく、今後の課題である。
		救助・救出	～15分後	自治会・班長	できる範囲で救出する	○	特に救出が必要な事態にはならなかった。
		要配慮者の避難支援	16分～30分後	自治会・班長		○	1世帯、要配慮者がおられたが、各階段で協力して、無事に避難する事ができた。
		現避難場所の安全確保	16分～30分後	自治会・班長	火災等による二次災害のおそれがないか判断する	○	会長が全体の建物を確認し、又、各階で火災などがいないかを世帯者に直接呼びかけ、二次災害による避難の必要性がないと判断した。
		災害等による二次災害のおそれに対する対策	16分～30分後	自治会・班長	消火器の活用	△	各階に消火器があるが、火災が発生しておらず、活用に、至らなかった。
		不明・不在者の安否確認	31分後～45分後	自治会・班長	班長に安否の確認	○	不明、不在者は、世帯主に、確認したが、不在で、確認、できない方はいなかった。
		避難場所での安否確認	46分後～60分後	自治会・班長	班長に安否の確認	○	最後、不在、不明者がいないかを再度確認した。
		今後、地区で取り組んでいくこと（または予定）	避難する事の大切さをこれからも積極的に伝えていきたいと思う。掲示板等を活用しながら。全員が集合した時には直接みんなに啓発活動を行う。				

地区	避難 中 避難 後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な 行動> どのように 行う	訓練に て取組 を实践 したか	訓練の結果（実践できな かった場合は、その理由 （課題））
日 海	避難中	地区住民の安否確認	～15分後	自治会・各班など	当自治会住宅7階建集合住宅で 6階～7階に避難 2～3→6F 4～5→7F	○	各班で点呼しエレベーターの前に集合した。
	避難中	地区住民の避難の声かけ	～15分後	自治会の班など	声をかけながら避難する 安否確認ができなかった 家に声かけする	△	各班長さんが声かけして、皆で集合場所へ行った。
	避難中	救助・救出	～30分後	自治会班	各部屋のドアを開ける	×	
	避難中	避難場所での避難者の確認	45分後	自治会・班など	点呼をとる 7F	○	各班の名簿で確認し、人数を会長に報告した
	避難後		45分後	自治会・班など	浸水区域外を通り移動する 海南高校	○	避難場所に歩いて行ってどの位の時間がかかるか、どんな所が危険かなどを見た、人数確認した
		今後、地区で取り組んでいくこと（または予定）					

地区	避難中避難後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制>誰が	<具体的な行動>どのように行う	訓練にて取組を実践したか	訓練の結果（実践できなかった場合は、その理由（課題））
貴 礼 都		安否確認	～15分後	自治会各フロア月当番+健者(自治会員)	各室の声かけ	○	声かけ、ドアノブにタオルを巻く、2つ方法を決めていたが訓練でもあるので声かけをとまどった。
		声かけ	～15分後	自治会各フロア月当番+健者(自治会員)	各室の声かけ	△	タオル巻きつけている部屋は声をかけあえた。タオルをノブにかけられない人もいた。
		救助	～30分後	自治会各フロア月当番+健者(自治会員)	各室より脱出させる	○	部屋からの脱出は、スムーズに出来た。
		要配慮者の支援	～45分後	自治会各フロア月当番+健者(自治会員)	各フロアで待機して車イスなどの準備をする	△	車イスを使った訓練が出来なかった。杖を使って各人が階段をのぼれた。
		避難者の確認	～45分以降	自治会各フロア月当番+健者(自治会員)	各フロアに各班ごとに集合	△	各班月当番の点呼に時間がかかった
		避難場所の検討		自治会各フロア月当番+健者(自治会員)	各階段を健者と月当番の指示に従う 7階フロアを目指す(上る)	△	7階フロアでの集合場所を各班で、まとまる事が出来なかった。
		今後、地区で取り組んでいくこと(または予定)	○タオルをノブに巻きつけられない方がいるためドアに張りつけられる様な物に変更するべきである。 ○月まわりの月当番ではなく、自治会役員任期と同じ2年任期の当番にする事				

地区	避難中 避難後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な行動> どのように行う	訓練にて取組を実践したか	訓練の結果（実践できなかった場合は、その理由（課題））
今市		地域住民の安否確認	～15分後	自治会 班長など	各自が行ける避難場所各班の班長さんが中心となれるよう	△	自治会長が仕事上の都合より不参加(後日三役で歩く)高齢者の多い自治会でかわってもらい人もなく各自参加でお願いした。足の悪い人が多い。高齢の夫婦一人住まいが多い
		地域住民への避難の声かけ	～15分後	〃	〃	△	〃
		救助 救出	～30分	〃	〃	△	〃
		要配慮者の避難支援	～45分	〃	〃	△	〃
		避難場所での確認	45分以降	〃	〃	△	〃 後日参加した人に伝えてもらい把握した
		今後、地区で取り組んでいくこと（または予定）	高齢者、足の悪い人が多すぎる 自己の意識がうすい(防災の) 地震、津波にかかわらず防災の意識を高めなければならない。				

地区	避難 中 避難 後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓 練 結 果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な 行動> どのように 行う	訓練にて取組を 実践したか	訓練の結果（実践できなかった場合は、その理由（課題））
新 浜	避難中	地区住民への避難の声かけ避難（要支援者含む）	～15分後	自治会の組など	①声をかけながら避難 ②要支援者の避難確認及びできる範囲で支援、救出	・訓練開始のサイレンが鳴る時には避難者が集結していたので「声かけ」はなかった。 ・要支援者の多数は訓練に参加しなかった。	・要支援者は延べ4名参加してくれた。全員自力で動ける人であった。 ・参加しない要支援者が多いため、要支援者のリストを独自に作って避難先を書き込み緊急時に備えることとした。
	避難中	自主防災組織の班長の所在確認	～30分後	防災隊長 情報班長 救出・救護班長	①電話、メールで確認	・隊長、班長は避難者を誘導、それぞれの避難場所で、相互に携帯電話で連絡と確認実施した	・問題なし
	避難後	避難場所での避難者の確認	30分後以降	自治会の組長 自主防災会の班長	①点呼	・各避難場所で大人と子供の人数確認実施	・問題なく実行できた。（但し、医療センターへ避難したが中へ入れず多くの人から不満が出た）
	避難後	自治会役員組長との連絡	45分後以降	防災隊長 情報班長	①各避難所を巡る	・隊長と情報班長が避難先2ヶ所づつを巡った	・一人で避難場所を廻るのは時間がかかりすぎるため
	避難後	避難所への避難の検討	45分後以降	組長	①避難所へ誘導	・最終避難所を浄土寺（日限地蔵）としているが、今回は行かなかった。	・多くの参加者は今回浄土寺まで歩く事を望まなかった。
	今後、地区で取り組んでいくこと（または予定）	1. 自治会の訓練参加者は合計149名（大人:111名、子供:38名）で、避難先が5か所あるため、今後はそれぞれの避難先を重点的に受け持つ自治会（防災隊）の役員を決めておくことの検討が必要。 2. 要支援者の避難支援をすることに対する会員の互助の意識が極めて低い。今後時間をかけて要支援者の避難を実行できる意識改革とシステム作りが大きな課題である。					

地区	避難 中 避難 後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な 行動> どのように 行う	訓練に て取組 を实践 したか	訓練の結果（実践できな かった場合は、その理由 （課題））
池 崎 1 組	避難 中	地区住民 の安否確 認	～15 分後	自治会	避難場所	○	避難場所へ向かうのに、 前に人がいたら、声をか ける
	避難 中	救助・救 出	～30 分後	自治会	できる範囲 で救出する 救助道具で 行う	△	基本的に自分で歩ける 人しか、地区にいない。 ケガをしていたら、皆で 助けあって避難する。
	避難 中	×要配慮 者の避難 支援	～45 分後	自治会	声かけ、自宅 から外へ 連れ出して、 付き添い で避難する		
	避難 後	要配慮者 の避難支 援 確認 避難場所 での確認	～60 分後	自治会	点呼をとる	○	
	今後、地区 で取り組ん でいくこと （または予 定）	避難の事で地区の人達と、話を出来る機会を作っていけたら、良いと思います。					

地区	避難 中 避難 後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な 行動> どのように 行う	訓練に て取組 を实践 したか	訓練の結果（実践できな かった場合は、その理由 （課題））
池 崎 3 ・ 4 組	避難 中	地区住民 の安否確 認	15分	避難者全 員確認す る	指定の場 所に集 合して 住民確 認	×	今回は役員のみ参加し 状況を確認することが 目的だった。
	避難 中	住民への 連絡声か け	15分 後	〃	集合でき なかつた 家に 声掛け する	×	今後の訓練の参加に向 けて意識向上を図りたい
	避難 中	車イスの 方に支援 する	30分	〃		×	1名車イスがなくても 歩けるので、今後様子 身続ける
	避難 後	避難場所 にて避難 者の確認 する	45分	再度人数 確認		×	
	避難 後	避難所へ の避難検 討	45分	〃		△	検討中（3役名札） →地区の名札 検討中
		今後、地区 で取り組 んでいく こと （または 予定）	古い家が多いので、地震が心配				

地区	避難中避難後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な 行動> どのように行う	訓練にて取組 を実践 したか	訓練の結果(実践できなかった場合は、その理由(課題))
池之丁	避難中	近所の住民の安全確認	～15分後	班長、自治会長 上記の者が不在の場合、臨機応変に対応する	城山集会所へ避難	△	①避難者の確認名前と顔と合致しない為、受付不備があった。本部立ち上げ機、ホワイトボード配置まずまず出来た。
	避難中	救助・救出	～30分後	近所、隣人で元気な人	声かけ、目で確認	△	①避難時“津波が来るぞ”を連呼しながら行動することができた(防災会長、組長)がはずかしがり声がち小さいが、いだとなれば大声がでると期待する。 ②拡声器、メガホンでの呼びかけが出来なかった。(集会所に保管しているため)平地にも保管配置する必要
	避難中	要配慮者の避難支援	～45分後	隣人で元気な人大きな声を連呼して逃げ役する人	近隣の2～3名で手助けする	△	①車イス2台で操作方法について実践訓練できました。 ②要配慮者の搬送にロープ補助3人で坂道を目一称の支援であった。車イスでの集会所避難検討必要 ③近隣に元気な人が少ない！救助・救出が難しい！
	避難後	資機材の持ち出し	～60分後	班長、自治会長 近隣の元気な人		△	①山に自治会の防災倉庫があるが平地にもミニ収納庫の設置を検討
	避難後	避難場所での避難者の確認	～45分後	班長、自治会長 民生委員	1～9組の班長にて確認する	△	①当日天気も良く参加者が多かったので避難者の名前と顔とが一致しない事あり！ ②常日頃のコミュニティ作り不足
	避難後	避難場所への避難の検討	45分後	班長、自治会長	複数の班長の合意により次の安全な避難場所への移動を考える	△	①組長、自治会々長との話し合い決定するが避難者の意思尊重して決定してほしい ②現状の避難所で十分である。
		今後、地区で取り組んでいくこと(または予定)	①自治会(1～9組)要配慮者のリストアップと定期的に訪問して意思疎通を計っていく、リストを集会所に保管々理する。 ②城山集会所の山頂避難所に市の管理による飲料水備蓄を要望して行く。 ③簡易トイレ資機材設置補助金で購入検討 ④安心安全の避難所作り…(子供、高齢者の為の)坂道、広場の美化清掃				

地区	避難 中 避難 後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な行動> どのように行う	訓練にて取組を実践したか	訓練の結果（実践できなかった場合は、その理由（課題））
里 之 丁	避難中	地区住民の安否確認 避難準備	～15分後	各自	避難準備、持物、火元確認	○	自分の持物、火元等確認して、各自あらかじめ決めた集合場所へ行く。
	避難中	地域住民の声かけ	～15分後	各自	各自向こう三軒両隣に避難の声をかける	○	○避難指定場所の柿本神社の山の上まで登れない人がいる。 ○初めから高めのビル等、その他の避難所を検討する
	避難中	救助・救出	～30分後	各班	状況に応じて対応する	○	状況がひっ迫している場合110番11番、LINE、ツイッターなどSNSも活用していち早く救助出来る様にする
	避難後	要配慮者の避難支援	～45分後	各班	昼間と夜間の住民が異なるのでコミュニケーションがとりにくい。	○	現状では町内の人口も少なく要配慮者をリードして避難させる若い人は殆どいない。
	避難後	避難場所での避難者の確認	45分以降	自治会(里の丁)	訓練参加者 大人34名 小人 2名	○	第一避難場所(柿本神社)から第二避難場所(海南高校)へのルートに不安がある。
		今後、地区で取り組んでいくこと(または予定)					

地区	避難 中 避難 後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な行動> どのように行う	訓練にて取組を実践したか	訓練の結果（実践できなかった場合は、その理由（課題））
宮前	避難中	避難の声かけ	～10分	各班、各自隣近所同士自治会長	「逃げろ」「避難」と叫びながら逃げる各自	×	臨場感意識が足りず行わなかった。
	避難中	安否確認逃げていない人を確認	～15分	各班長か自治会長近隣住民	避難場所を確認	○	世帯人数中何人避難したかを確認できた。
	避難中	火災の発生の確認	～40分	各班自治会長	備え付けの消火器等での初期消火消火担当者か住民	△	安否確認の際、発生の有無の確認を行ったが、消火訓練は行わなかった。
	避難中	倒壊した建物に取残された人がいないか	～40分	各班近隣住民自治会長	救護担当者や住民で救助	×	救助についての話は、参加者に行ったが救護担当者を決めるには至っていない。
	避難中	要介護者の避難状況	～40分	近隣住民救護担当者自治会長	声かけ、付き添いで避難	×	要介護者がいなかったので取り組まなかった。介助者の確保等今後の検討課題としたい。
	避難後	避難場所での避難者の確認	45分後			○	訓練参加には津波到達時刻や高さ、被害想定について講話した。
	避難後	避難所への避難検討				○	避難所は海南高校であることを伝えた
		今後、地区で取り組んでいくこと（または予定）	自主防災組織としての消火、救援担当者の任命を行いたいが、自己避難優先でもある為、自前の組織づくりが難行している。現役世代の自治会活動の参加が望まれる。こうした訓練を通じ意識の向上と要介護者の救助態制を充実させて行きたい。				

地区	避難 中 避難 後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な行動> どのように行う	訓練にて取組を実践したか	訓練の結果（実践できなかった場合は、その理由（課題））
南 之 丁	避難中	近所同士での安否確認	～15分後	各班	近所への声かけ	×	
	避難中	要支援者避難誘導	～15分後	各班	安全確認しながら声かけ	×	
	避難中	安否情報 安否確認 要支援者 避難誘導	～30分後	各班	近所へ避難の再確認	×	
	避難後	避難者の確認	～45分後	各班	点呼をとる	○	時間内に避難でき避難者を確認できた。
	避難後	避難所の避難	～45分後以降	各班	避難経路の検討	×	
		今後、地区で取り組んでいくこと（または予定）	予定なし				

地区	避難 中 避難 後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な 行動> どのように 行う	訓練に て取組 を实践 したか	訓練の結果（実践できな かった場合は、その理由 （課題））
御 門	避難中	全戸へ避難しろと声かけをする	発災から30分	自主防災委員	自主防災委員から各組の人に伝えるようにしてもらう	△	会長1人で、拡声器で避難して下さいと言いましたが、スピード感にかけるところがあつたので、あと2.3人で声かけをするべきである。
	避難中	救助	30分	動ける人全員	救助用具及び利用できる物は何でも使って救出する	○	竹竿や、バックチェアを使って、救助訓練をした。
	避難中	要配慮者の救出	55分	動ける人全員	何が何でも助ける	△	要配慮者にお願いしましたが、協力を得ることができなかった。
	避難後	避難所の開設	55分以降	自主防災委員	全住民の確認	○	
	避難後	避難所	100分以降	自主防災委員	炊き出し床の準備 トイレ	○	
		今後、地区で取り組んでいくこと（または予定）	避難用具の使い方を十分理解し、もっと速く使える様にしていきたい。				

地区	避難 中 避難 後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な 行動> どのように 行う	訓練に て取組 を实践 したか	訓練の結果（実践できな かった場合は、その理由 （課題））
奥 之 丁	避難 中	要支援者 の声かけ	10分 後	自助で 防災会長 民生委員	避難指示	×	体制が出来ていなかった
	〃	歩行困難 者の手助 け	10分 後	自治会全 員	手を差し伸 べる	△	少し時間がかかったが 時間内に避難、周囲にも っと声をかけ手助け求 める
	〃	子供達の 誘導	15分 後	自治会役 員	大きな声で 導く	△	今回は、子供達は家族で 避難
	〃	近隣の声 かけ	15分 後	自治会全 員	避難指示	○	班で声かけし、想定時間 内に避難することがで きた
	〃	避難者の 誘導	20分 後	〃	大きな声で 導く	○	地区全体が、協力心があ ったのでスムーズに
	避難 後	避難場所 での避難 者の確認	55分 以降	自治会役 員	各班長が人 数確認	○	今回の訓練は、成果があ った（参加者増）
		今後、地区 で取り組ん でいくこと （または予 定）	近隣の声かけが大事なので、もっと徹底する事に取り組む 防災訓練の後具体的な状況を決め取り組 避難場所の安全を確認をする				

7. 訓練後アンケート結果

※アンケート回答数 781 件

※各項目で、小数点以下第2位を四捨五入しているため、100%にならない場合があります。

1. 回答者の内訳（自治会、年齢、性別、家族構成）

【お住まいの自治会】

千原1組自治会	18	2.3%	下芦原自治会	3	0.4%
千原2組自治会	42	5.4%	井引自治会	20	2.6%
千原3組自治会	13	1.7%	朝日町自治会	22	2.8%
千原4組自治会	5	0.6%	日方東自治会	8	1.0%
千原5組自治会	7	0.9%	井松原自治会	22	2.8%
千原6組自治会	6	0.8%	駅二自治会	14	1.8%
千原7組自治会	4	0.5%	日海自治会	22	2.8%
東雲自治会	45	5.8%	貴礼都自治会	47	6.0%
新生町自治会	17	2.2%	今市自治会	22	2.8%
共栄自治会	1	0.1%	新浜自治会	87	11.1%
上神田自治会	31	4.0%	奥之丁自治会	93	11.9%
中神田1組自治会	20	2.6%	里之丁自治会	16	2.0%
中神田2組自治会	0	0.0%	宮前自治会	25	3.2%
神田丸尾会自治会	23	2.9%	南之丁自治会	32	4.1%
海中前自治会	14	1.8%	御門自治会	15	1.9%
大江住宅自治会	0	0.0%	池之丁自治会	16	2.0%
親和会自治会	1	0.1%	池崎1組自治会	6	0.8%
和大宿舎寮自治会	3	0.4%	池崎2組自治会	0	0.0%
上芦原1組自治会	25	3.2%	池崎3・4組自治会	1	0.1%
上芦原2組自治会	8	1.0%	県営海南駅前団地自治会	27	3.5%
			合計	781	100.0%

【年齢】

10歳未満	0	0.0%
10代	0	0.0%
20代	8	1.0%
30代	34	4.4%
40代	57	7.3%
50代	90	11.5%
60代	199	25.5%
70代	227	29.1%
80代以上	159	20.4%
無回答	7	0.9%
計	781	100.0%

【性別】

男	325	41.6%
女	449	57.5%
無回答	7	0.9%
合計	781	100.0%

【ご自宅での家族構成】

単身世帯	200	25.6%
夫婦のみ	232	29.7%
2世代世帯（親と子）	268	34.3%
3世代世帯（親と子と孫）	34	4.4%
その他	22	2.8%
無回答	25	3.2%
合計	781	100.0%

2. 訓練への参加状況

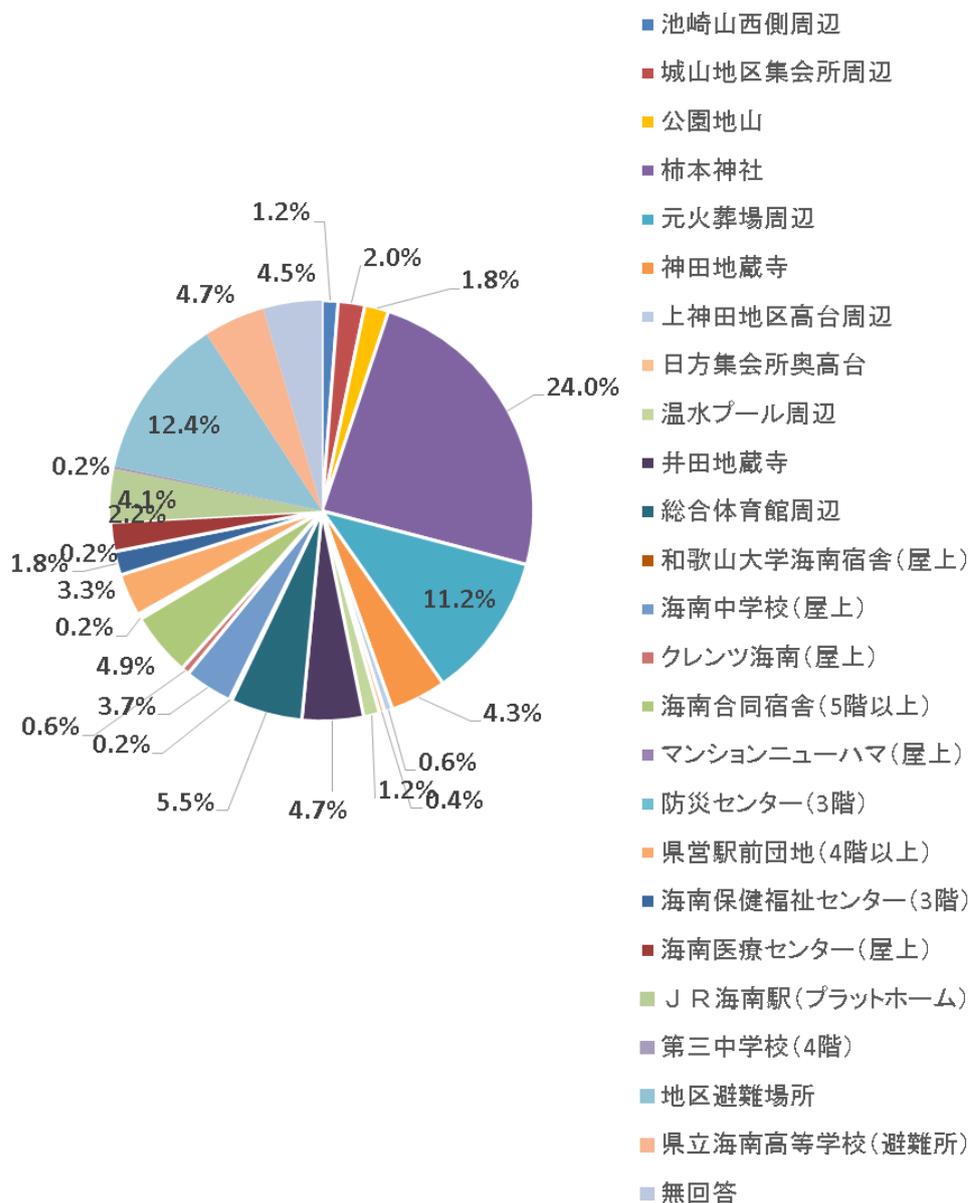
【11月12日（日）に実施された津波避難訓練に参加されましたか？】

参加した	491	62.9%
参加しなかった	258	33.0%
無回答	32	4.1%
合計	781	100.0%

【訓練当日に避難した避難場所】

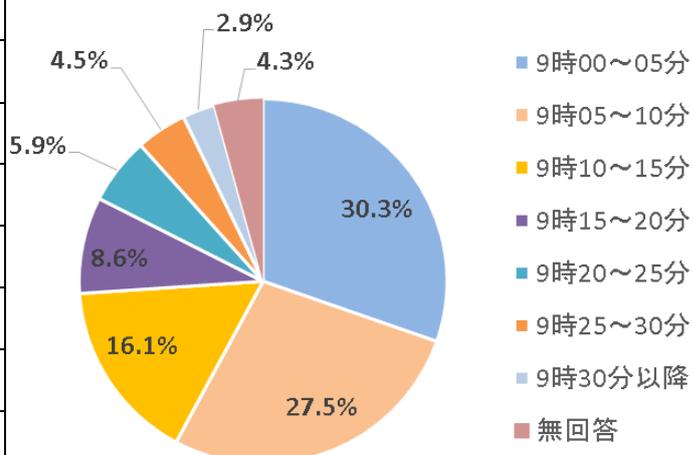
池崎山西側周辺	6	1.2%
（仮称）池崎山津波避難場所	0	0.0%
城山地区集会所周辺	10	2.0%
公園地山	9	1.8%
柿本神社	118	24.0%
元火葬場周辺	55	11.2%
神田地蔵寺	21	4.3%
上神田地区高台周辺	3	0.6%
日方集会所奥高台	2	0.4%
温水プール周辺	6	1.2%
井田地蔵寺	23	4.7%
春日ふれあい広場	0	0.0%
春日神社周辺	0	0.0%
井田児童会館周辺	0	0.0%
総合体育館周辺	27	5.5%
和歌山大学海南宿舎（屋上）	1	0.2%
海南中学校（屋上）	18	3.7%
日方小学校（屋上）	0	0.0%
クレンツ海南（屋上）	3	0.6%
パル・シャトー海南（4階以上）	0	0.0%
海南合同宿舎（5階以上）	24	4.9%
マンションニューハマ（屋上）	1	0.2%

防災センター（3階）	1	0.2%
県営駅前団地（4階以上）	16	3.3%
海南保健福祉センター（3階）	9	1.8%
和歌山プリンスイン海南（4階以上）	0	0.0%
海南医療センター（屋上）	11	2.2%
J R海南駅（プラットホーム）	20	4.1%
第三中学校（4階）	1	0.2%
地区避難場所	61	12.4%
県立海南高等学校（避難所）	23	4.7%
無回答	22	4.5%
合計	491	100.0%



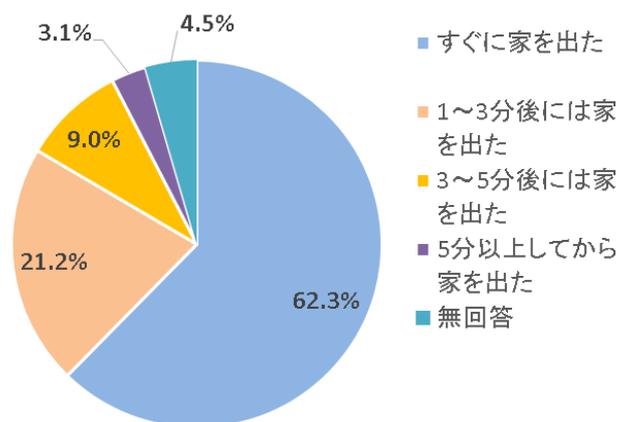
【今回の訓練では、避難場所に何時ごろ到着しましたか？】

9時00～05分	149	30.3%
9時05～10分	135	27.5%
9時10～15分	79	16.1%
9時15～20分	42	8.6%
9時20～25分	29	5.9%
9時25～30分	22	4.5%
9時30分以降	14	2.9%
無回答	21	4.3%
合計	491	100.0%



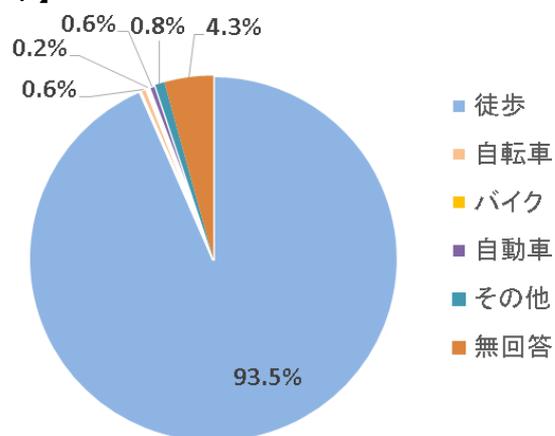
【避難訓練の開始の放送があった後、すぐに家を出ましたか？】

すぐに家を出た	306	62.3%
1～3分後には家を出た	104	21.2%
3～5分後には家を出た	44	9.0%
5分以上してから家を出た	15	3.1%
無回答	22	4.5%
合計	491	100.0%



【避難場所まで、どのような方法で避難しましたか？】

徒歩	459	93.5%
自転車	3	0.6%
バイク	1	0.2%
自動車	3	0.6%
その他	4	0.8%
無回答	21	4.3%
合計	491	100.0%

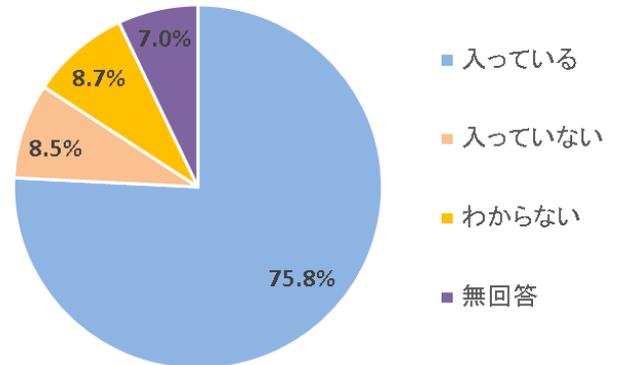


- ・ 8割以上の住民が大津波警報発表後、20分以内に避難場所に避難完了している
- ・ 避難場所までは、9割以上の住民が徒歩で避難している

3. 地震・津波に対する認識と危機意識

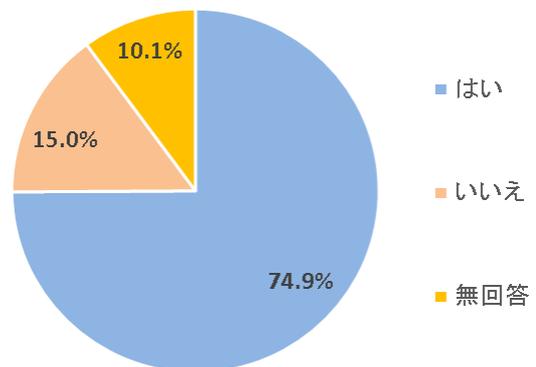
【ご自宅は、津波による浸水想定区域の中に入っていますか？】

入っている	592	75.8%
入っていない	66	8.5%
わからない	68	8.7%
無回答	55	7.0%
合計	781	100.0%



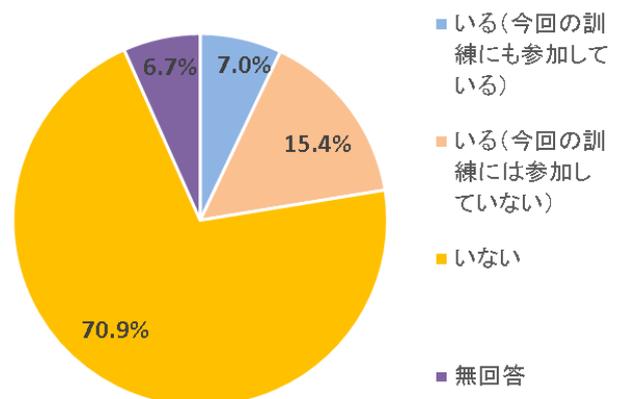
【今回、避難した場所以外に、他の避難場所も知っていますか？】

はい	585	74.9%
いいえ	117	15.0%
無回答	79	10.1%
合計	781	100.0%



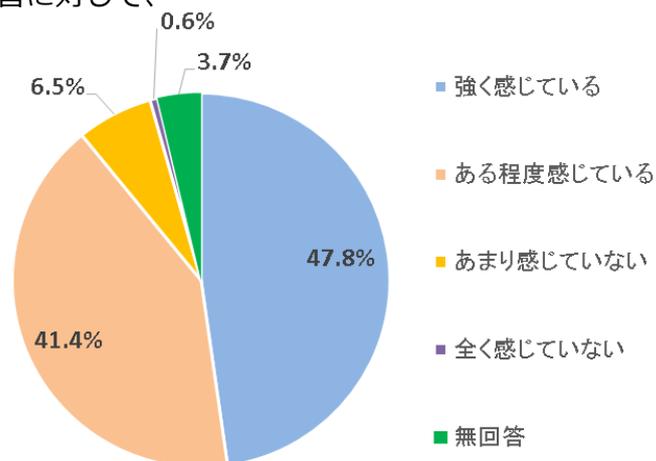
【ご家族の中に、自分で徒歩によって避難場所まで行くことができる方はいらっしゃいますか？】

いる（今回の訓練にも参加している）	55	7.0%
いる（今回の訓練には参加していない）	120	15.4%
いない	554	70.9%
無回答	52	6.7%
合計	781	100.0%



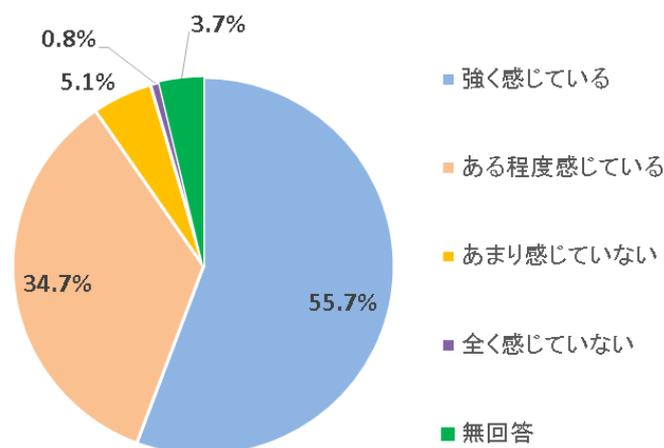
【南海トラフ地震の揺れによる住宅・建造物の被害に対して、
どの程度危機感を感じていますか？】

強く感じている	373	47.8%
ある程度感じている	323	41.4%
あまり感じていない	51	6.5%
全く感じていない	5	0.6%
無回答	29	3.7%
合計	781	100.0%



【南海トラフ地震の後に発生する津波による被害に対して、
どの程度危機感を感じていますか？】

強く感じている	435	55.7%
ある程度感じている	271	34.7%
あまり感じていない	40	5.1%
全く感じていない	6	0.8%
無回答	29	3.7%
合計	781	100.0%



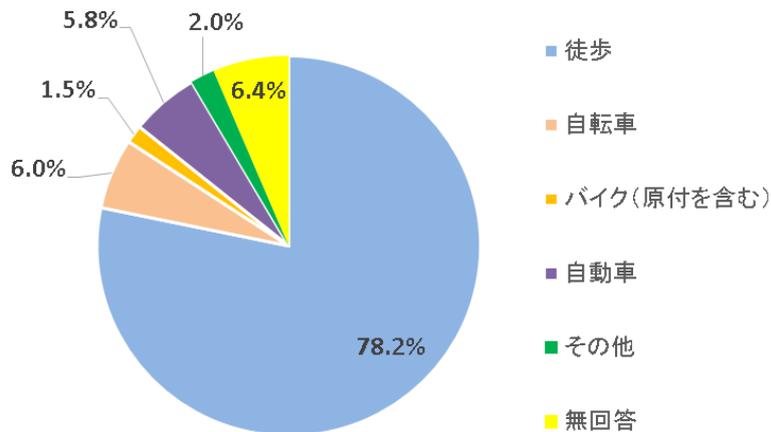
- ・ 自宅周辺の津波の浸水想定について、8割以上の住民が認知している
- ・ 自宅周辺の津波避難場所について、約4分の3の住民が複数の避難場所を認知している
- ・ 家族の中に、自力で徒歩で避難場所まで行けそうにない人がいる住民が9割以上いる
- ・ 南海トラフ地震について、地震の揺れや津波に、約9割の住民が危機感を感じている

4. 実災害時の避難の想定と問題点の認識

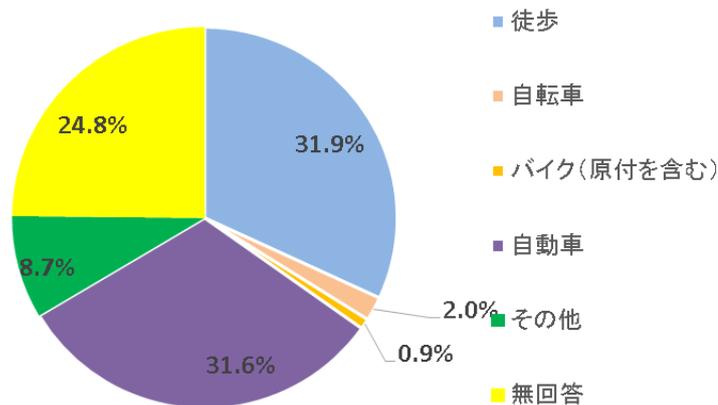
【ご自宅で家族全員がいるときに大きな揺れを感じる地震が発生し、大津波警報が発令された場合、実際には、どのような手段で避難しますか】

	家族全員が地震によってケガなどしていない場合		家族の中に地震による負傷者がいる場合	
徒歩	611	78.2%	249	31.9%
自転車	47	6.0%	16	2.0%
バイク（原付を含む）	12	1.5%	7	0.9%
自動車	45	5.8%	247	31.6%
その他	16	2.0%	68	8.7%
無回答	50	6.4%	194	24.8%
合計	781	100.0%	781	100.0%

家族全員が地震によってケガなどしていない場合



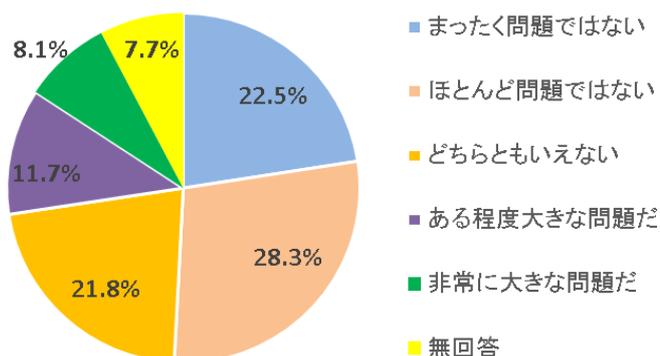
家族の中に地震による負傷者がいる場合



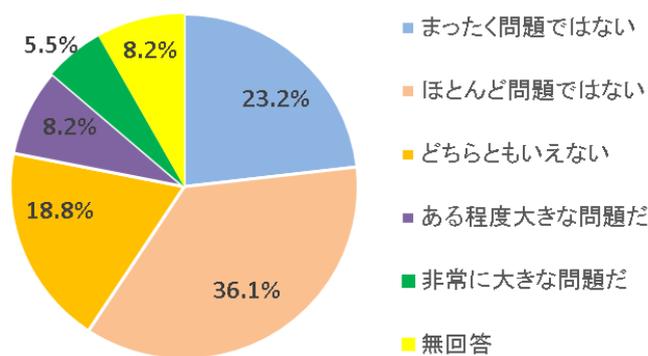
【大きな地震が発生した後、あなたと同じ場所に住んでいる家族でいっしょに津波から避難するとき、以下の項目は、どの程度、避難を困難にさせる問題だと思いますか】

	まったく問題ではない	ほとんど問題ではない	どちらともいえない	ある程度大きな問題だ	非常に大きな問題だ	無回答	合計
自宅から避難場所までの距離	176	221	170	91	63	60	781
	22.5%	28.3%	21.8%	11.7%	8.1%	7.7%	100.0%
自宅から外に出るまでに時間がかかること	181	282	147	64	43	64	781
	23.2%	36.1%	18.8%	8.2%	5.5%	8.2%	100.0%
道路が壊れて、徒歩では避難しづらくなっていること	50	107	189	184	174	77	781
	6.4%	13.7%	24.2%	23.6%	22.3%	9.9%	100.0%
道路が壊れて、自動車では避難できなくなっていること	58	79	168	201	176	99	781
	7.4%	10.1%	21.5%	25.7%	22.5%	12.7%	100.0%
避難する人が多くいるために、通行しづらくなっている場所があること	57	124	185	192	139	84	781
	7.3%	15.9%	23.7%	24.6%	17.8%	10.8%	100.0%
避難する時に、誰かに支援してもらわなければならないこと	161	189	148	123	91	69	781
	20.6%	24.2%	19.0%	15.7%	11.7%	8.8%	100.0%
周囲の人に対して、避難の支援をすること	64	132	288	120	89	88	781
	8.2%	16.9%	36.9%	15.4%	11.4%	11.3%	100.0%

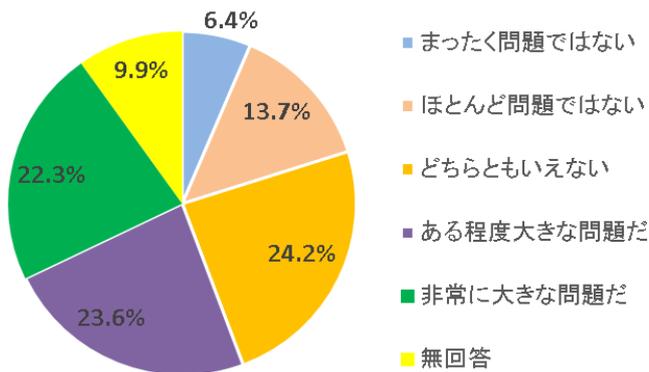
自宅から避難所までの距離



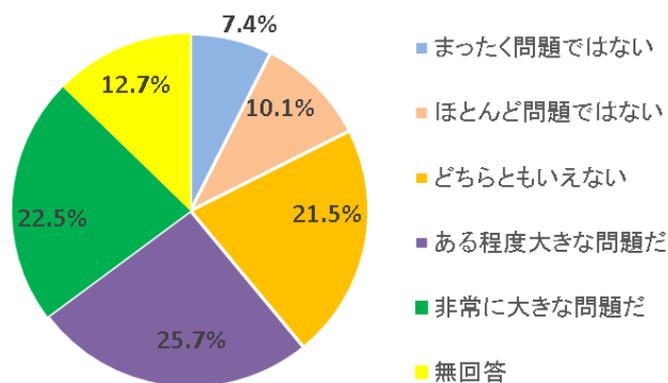
自宅から外に出るまでに時間がかかること



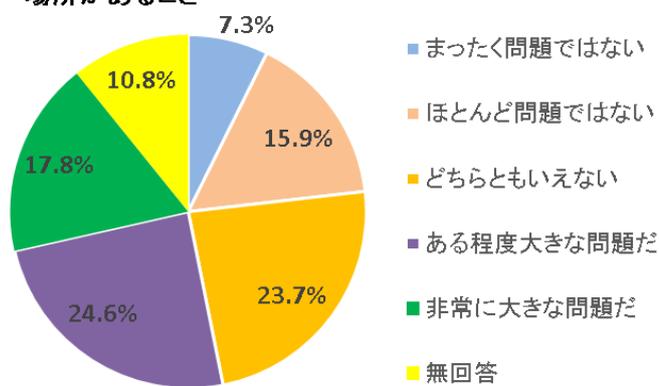
道路がこわれて、徒歩では避難しづらくなっていること



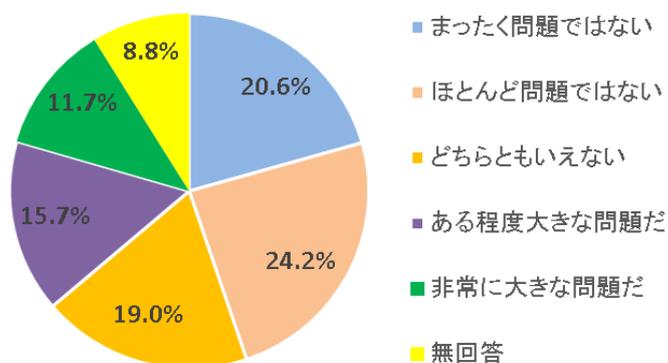
道路が壊れて、自動車では避難できなくなっていること



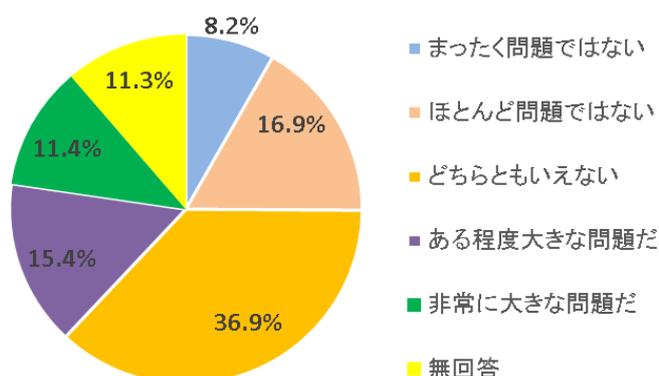
避難する人が多くいるために、通行しづらくなっている場所があること



避難する時に、誰かに支援してもらわなければならないこと



周囲の人に対して、避難の支援をすること



- ・地震発生後の避難の手段について、家族に負傷者がいない場合は約 8 割が徒歩を想定しているが、負傷者がいる場合は徒歩での避難が約 3 割になり、自動車での避難が約 3 割に増加している
- ・「道路が壊れて、徒歩では避難しづらくなっていること」、「道路が壊れて、自動車では避難できなくなっていること」、「避難する人が多くいるために、通行しづらくなっている場所があること」といった避難路に関する問題について、半数程度の住民が避難を困難にさせる問題として感じている。

8. 研修会及びアンケートのご意見・ご要望への回答について

平成 29 年度地域防災活動支援事業を実施するなかで、日方地区の皆様よりいただきましたご意見・ご要望への回答を以下にまとめました。

ご意見・ご要望の内容から分類した項目ごとに、基本的な考え方やご対応いただきたい点、市の施策・方針などを示しています。

今後の地区・ご家庭で防災活動に取り組む際の参考としていただきますよう、お願い申し上げます。

1. 地域の防災体制や取り組みについて

(1) 避難先の用途に応じた避難について

地震・津波などの災害が発生した場合の避難先については、用途に応じて「避難場所」と「避難所」に分けられます。

避難場所…災害による危険から身を守るために、一時的に避難する場所

避難所 …住居の被災または被災するおそれがあることにより避難生活を送る場所

地震・津波からの避難に当たっては、避難場所に緊急避難し安全を確保したのち、住居が安全な場合は帰宅し、安全が確保できない場合は避難所などへ再度避難（二次避難）する必要があります。

なお、市で整備する避難場所のうち、津波に対するものは「津波避難場所」と「津波緊急避難ビル」に分けられ、「津波緊急避難ビル」は津波の到達までに浸水が想定される区域外へと避難できない場合の避難場所となります。

津波から避難する場合は、可能な限り「津波避難場所」などの浸水が想定されている区域外に避難するようお願いいたします。

(2) 二次避難について

避難所への二次避難の基本的な考え方として、道路への浸水・がれきの堆積などの面から、浸水が想定される区域を通らずに避難できる経路を選択します。

日方地区については、「元火葬場から温水プールに抜ける山道」が二次避難経路として想定されます。また、「柿本神社からの山道（みどりの小道）」から、浸水が想定される区域を通らずに「元火葬場」に行くこともできます。体力などを考慮し、避難可能な場合は、本経路で避難所に避難してください。「元火葬場からの山道」は、「元火葬場」から、また「みどりの小道」は「柿本神社」より進入可能です。

二次避難先となる避難所ですが、日方地区内には避難所がないため、黒江地区の「室山保育所」、大野地区の「県立海南高等学校」、「大野公民館」、「大野小学校」、また亀川地区の「亀川公民館」、「亀川小学校」、「亀川中学校」が周辺地区の避難所になります。

なお、池崎山西側周辺、(仮称)池崎山津波避難場所、城山地区集会所周辺、公園地山、

神田地蔵寺の津波避難場所は、浸水状況により避難所や他の避難場所に移動できない可能性があります。このような避難場所に避難する場合は、救助が到着するまでの滞在を想定し、非常用持出品の充実をお願いします。

また、余裕がある場合は、二次避難が可能な避難場所や浸水の想定される区域外に直接避難することも有効です。

(3) 安全な避難経路の確保について

避難場所までの避難経路については、配布した「わが家の避難マップ」に記載のある「避難時に注意を要する箇所」の確認や、実際に避難経路を歩くなどして、注意すべき箇所や通行不可となる可能性がある箇所などを事前に確認しておき、複数の避難経路や避難場所について所要時間も含め検討するなど、ご準備をお願いします。

また外出時に災害が起こる場合もあります。普段立ち寄る所などが津波浸水想定区域である可能性もありますので、津波ハザードマップで津波避難場所等を把握し、津波避難場所や避難経路の確認をしてください。

(4) 要配慮者の支援について

要配慮者（高齢者、障害者、乳幼児など）の避難支援については、支援する側と支援を受ける側のそれぞれの意識や取組が必要となります。

支援する側	…近隣の要配慮者を把握し、見守る意識を持つ
支援を受ける側	…周囲に対して支援が必要であることを意思表示する

災害時の避難支援の実効性を高め、円滑に行うためには、平常時から気軽に話し合える関係を築くことが重要です。そのうえで、具体的にどのような支援を行うか（受けるか）を話し合い、災害時には支援する側の身の安全が確保できる範囲内で支援を行ってください。

また、市では自治会・自主防災組織を対象に、「避難行動要支援者名簿」（要配慮者のうち情報提供の同意を得たもの）の提供を行っていますので、地区でご協議のうえ、高齢介護課までご相談ください。

(5) 物資・資機材の整備について

市の避難場所は「緊急的」「一時的」に避難する場所として、短期間の滞在を想定しています。この間に必要となる物資や資機材については、基本的には各家庭の非常用持出品及び自主防災組織の備蓄で対応いただくこととなります。また、トイレについても各家庭及び自主防災組織で整備したトイレ袋等で対応いただくようお願いします。

なお、避難場所に備蓄する物資・資機材のほか、要配慮者の避難支援のための車椅子やヘルメットなどの整備に要する経費については、「自主防災組織育成補助金」の対象となりますので、活用を検討される場合は、自主防災会でご協議のうえ、危機管理課までご相談ください。特に、孤立が想定される避難場所への備蓄倉庫の設置・資機材の整備につい

ては、地区の負担割合を縮小した補助制度を実施しています。

(6) 防災体制の整備と防災活動について

防災に対する研修や課題に応じた訓練などは、地区の皆様の防災意識（自助）の向上や地域の防災力（共助）を高めることにつながるため、積極的に実施してください。

取組が進んでいないと思われる地区におきましても、話合いや訓練等で出た課題を解消するための取組から少しずつ進めてください。

組織力を高める手段の一つとして、防災リーダー（防災士）を育成することも有効です。防災士の資格取得費用については「自主防災組織育成補助金」の対象となりますので、ぜひご活用ください。

また、市では地区ごとの津波の避難計画の作成を推進しています。作成を検討される場合は、地区でご協議のうえ、危機管理課までご相談ください。

避難路・避難場については、いざと言うときに迅速に避難することができるよう、日頃から維持管理に努めましょう。

2. 市の防災施策・方針について

(1) 避難場所・避難所・避難路の整備について

避難場所周辺の避難誘導灯・避難誘導看板の整備については、各避難場所ごとに年次的に整備を進めており、未整備分が完了したのち、再度の整備等について検討します。

避難場所及び避難路の舗装・段差解消や手摺の設置などについては、危機管理課または建設課までご相談ください。また、日方川の橋梁については、河川改修工事に伴う箇所について順次架け替え工事を進めています。

元火葬場と（仮称）池崎山津波避難場所には市において備蓄倉庫及び物資の整備を進めています。

(2) 地震による建築物等の倒壊・崩壊対策について

地震による倒壊・崩壊のおそれがある空き家、未耐震の住宅、がけ地・急傾斜地については、各担当課（下記参照）にて対応いたしますので、地区でご協議のうえ、ご相談ください。

空き家対策、住宅の耐震対策…都市整備課

がけ地・急傾斜地 …建設課

（※がけ地・急傾斜地の整備は和歌山県の事業となるため、建設課でとりまとめ、和歌山県に要望します。）

(3) プレジャーボート対策について

市では、海南市水域におけるプレジャーボート等放置艇対策として、市内沿岸部4カ所（築地・日方・冷水・下津）に小型船係留施設及び駐車場等の整備を進めています。

お問い合わせやご要望がある場合は、地区でご協議のうえ、管理課までご相談ください。

（４）風水害時の浸水対策について

対応や方針を検討いたしますので、地区でご協議のうえ、建設課までご相談ください。

（５）防災行政無線の難聴対策について

市では、防災行政無線の放送内容を、放送後の1時間程度の間、電話で確認できる「電話案内サービス（フリーダイヤル、☎0120-170089）」を実施していますので、防災行政無線が聞き取りにくい場合は、ご活用ください（通話料は無料です）。なお、放送後1時間以上の経過や新たな放送があった場合は、放送内容が消去・上書きされますのでご注意ください。

また、市のメール配信サービスでも放送内容を確認することができます。登録を希望される場合は、危機管理課までご相談ください。

なお、災害情報は、上記のほか、地デジデータ放送、市ホームページ、フェイスブック、エリアメール・緊急速報メール（避難勧告・避難指示（緊急）のみ）等で確認できます。

（６）その他の防災に関する意見・要望について

上記以外の防災に関する意見や要望がある場合は、危機管理課までご相談ください。